

平成22年度
知床国立公園適正利用等検討調査
報告書

平成23年3月

環境省釧路自然環境事務所

目次

I. 業務概要	1
1. 調査名	1
2. 調査の背景・目的	1
3. 調査実施体制	1
4. 調査の手法・概要	1
(1) 知床国立公園の利用実態調査	
(2) 知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議の開催	
(3) 羅臼湖の利用のあり方に関する検討	
(4) 知床連山登山道の利用のあり方に関する検討	
5. 調査結果	2
(1) 知床国立公園の利用実態調査	
(2) 知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議の開催	
(3) 羅臼湖の利用のあり方に関する検討	
(4) 知床連山登山道の利用のあり方に関する検討	
6. 今後の予定	2
II. 知床国立公園の利用実態調査	3
1. 調査概要	3
(1) 作成目的	
(2) 調査方法	
(3) 調査対象地区	
2. 利用状況	5
(1) 公園全体の状況	
(2) 知床半島中央部地区の利用状況	
(3) 知床半島先端部地区の利用状況	
(4) 施設利用状況	
III. 知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議の開催	32
1. 知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議の位置づけと構成	32
2. 会合の結果報告と次年度以降の展望	34
(1) 知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議	
(2) 参考：エコツーリズム戦略起草部会	
(3) 参考：個別会合	
1) 羅臼湖会合	

- 2) 知床国立公園ウトロ海域における海鳥の保護と持続可能な海域利用検討会
- 3) 知床五湖利用のあり方協議会
- 4) ヒグマ保護管理方針検討会議

IV. 羅臼湖の利用のあり方に関する検討	43
1. 羅臼湖の利用のあり方検討の構成	
2. 調査概要	
(1) カウンター・入林簿解析	
(2) ガイド聞き取り調査	
(3) 利用者アンケート調査	
(4) 参考：業務外の調査等	
3. 考察	
(1) 調査結果の整理	
(2) 羅臼湖の利用のあり方について	
V. 知床連山登山道利用のあり方に関する検討	51
1. ニツ池における植生の荒廃状況等に関する調査と対策の検討	51
(1) 調査概要	
(2) 考察	
2. 知床連山の縦走利用の整理	56
(1) 調査概要	
(2) 考察	

I. 業務概要

1. 調査名

平成 22 年度知床国立公園適正利用等検討調査業務

(A survey of proper use of the Shiretoko national park 2010)

2. 調査の背景・目的

知床国立公園では、原始性の高い自然や野生動物とのふれあいを求める利用ニーズの増大と利用の多様化に伴い、利用者の集中や不適切な利用に伴う自然環境への悪影響が懸念されている。

このような状況に対応するため、環境省は、平成 13 年度から、関係機関・関係団体と協力して、知床国立公園の利用適正化に向けて、「知床国立公園適正利用基本構想（平成 13 年度）」「知床半島先端部地区利用適正化基本計画（平成 16 年 12 月）」、「知床半島中央部地区利用適正化基本計画（平成 17 年 9 月）」、「知床半島中央部地区利用適正化実施計画（平成 19 年度～21 年度）」、「知床半島先端部地区利用の心得（平成 20 年 1 月）」、「知床半島中央部地区利用の心得（平成 21 年 1 月）」を策定し、これらの計画に基づき、施策を展開している。

このような中、計画等策定により今日までの間に、知床の利用及びエコツーリズムの考え方が変化していることから、地域の多様な意見を聞きながら現状の把握及び今後のあり方を整理し、今後の計画に反映させるべく適正利用・エコツーリズムのあり方を検討する。

3. 調査実施体制

本調査は、環境省釧路自然環境事務所からの請負として北電総合設計株式会社が実施したものである。

なお業務にあたっては下記の学識経験者の協力の下実施した。

学識経験者：北海道大学 庄子 康 准教授

・ 羅臼湖利用意向調査（第IV章）

学識経験者：北海学園大学 佐藤 謙 教授

専修大学北海道短期大学 石川 幸男 教授

斜里町立知床博物館 内田 暁友 学芸員

・ 二ツ池における植生の荒廃状況等に関する調査検討（第V章）

4. 調査の手法・概要

(1) 知床国立公園の利用実態調査

・ 平成 22 年の知床国立公園の利用について、文献、アンケート、ヒアリング、カウンターデータ（11 箇所）、入林簿のデータに基づき、その利用者数、経年変化、特筆事項を整理した。

(2) 知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議の開催

・ 知床世界遺産地域の適正な利用とエコツーリズムのあり方を検討する「知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議」の開催事務を行った。（計 3 回）

(3) 羅臼湖の利用のあり方に関する検討

・ 入林簿やカウンターデータ、ガイド事業者へのアンケートによる利用動態調査と、羅臼湖現地

での利用者アンケートによる利用意向調査を行った。

(4) 知床連山登山道の利用のあり方に関する検討

1) ニツ池における植生の荒廃状況等に関する調査検討

- ・ニツ池周辺の植生及びその荒廃状況について、専門家とともに植生調査を実施し、対策の検討を行った。

2) 知床連山縦走利用状況調査

- ・入林簿により、本年度の知床連山縦走路の利用者数、利用状況について整理を行った。

5. 調査結果

(1) 知床国立公園の利用実態調査

- ・北海道観光統計によれば、オホーツク圏において昨年度に比較し、観光利用が増加したとされているが、知床国立公園内の多くの施設、地域において微減となった。
- ・減少の一方で、羅臼観光船や森林センター等、新しい利用が定着しつつある。
- ・利用調整の準備が進む知床五湖においては、地上歩道利用者と高架木道利用者の利用割合が逆転した。

(2) 知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議の開催

- ・知床エコツーリズム戦略の基本要素、対象、既存計画との関係、策定プロセスについて合意を得た。
- ・知床エコツーリズム戦略起草部会が開催され、戦略骨子（案）が策定された。

(3) 羅臼湖の利用のあり方に関する検討

- ・羅臼湖の利用者は静寂な自然環境を評価していることが確認された。
- ・ガイドツアーが普及し、利用の多くを占めていることが確認された。
- ・グループが少数化しており、利用の集中が回避されている状況が確認された。
- ・アクセスに関しては、ガイドツアーの送迎利用の普及等により、自動車の路上駐車が減少していることが確認された。
- ・個人利用者は、アクセス手法が限定されており、安全が確保されない峠からの徒歩利用等を選択する状況が確認された。

(4) 知床連山登山道の利用のあり方に関する検討

1) ニツ池における植生の荒廃状況等に関する調査検討

- ・野営や登山道の踏圧による荒廃状況が確認された。
- ・ニツ池周辺の代表的な群落の基礎情報を把握することができた。

2) 知床連山縦走利用状況調査

- ・昨年と同様な傾向の利用状況が確認された。

6. 今後の予定

- ・適正利用・エコツーリズム検討会議は継続し、各部会と連携を取りながら、エコツーリズム戦略の策定や、羅臼湖等他地域の課題に関して協議が継続される。

II. 知床国立公園の利用実態調査

1. 調査概要

(1) 作成目的

知床国立公園区域内の各地域における利用状況に関するデータを、毎年取りまとめることにより、国立公園の管理に資するとともに、その状況について広く周知することを目的とする。

(2) 調査方法

知床国立公園の利用者数等のデータを収集し、とりまとめを行った。調査項目は、既存資料との比較検討が出来るよう、平成 20 年度利用適正化検討調査における「知床国立公園利用状況報告」の項目を踏襲した。

観光船、シーカヤック、サケマス釣りの利用者数については、アンケート調査を実施し、情報収集を行い、その他の利用者数等のデータについては、環境省や地元の各関係機関が収集している情報を入手し、取りまとめ及び整理を行った。なお、環境省が設置するカウンターデータについては、環境省から提供されたカウンターの生データを整理し、集計を行った。またフレペの滝と知床五湖のカウンターについては、カウンターの精度を測る誤差測定を実施した。各調査の項目及び調査方法については、資料編に整理する。

(3) 調査対象地区

知床国立公園においては、利用形態の特性から「知床半島先端部地区」と「知床半島中央部地区」の 2 地区に分け、利用適正化に向けた検討、計画の立案等がなされていることから、本調査においてもその区分に従い、データを取りまとめた。

1) 知床半島先端部地区

知床半島先端部地区は歩道や車道など一般の公園利用のための施設がなく、国立公園計画上の「利用施設計画」も設定されておらず、制度上一般の利用者による積極的な利用は想定されていない地域である。知床岬あるいは知床岳等を目的地として、知床大橋や相泊などから海岸線、沢や稜線部を徒歩で、あるいはウトロや相泊などから海上を船等で利用されており、概ね次の範囲を対象区域とする。

- ・ 海岸陸域部：羅臼側＝相泊から北東域
斜里側＝知床大橋から北東域
- ・ 沿岸海域部：羅臼側＝相泊から北東域
斜里側＝幌別から北東域
- ・ 内陸山岳部：硫黄山から北東域

2) 知床半島中央部地区

「知床半島中央部地区」は、「知床半島先端部地区」以外の知床国立公園内の地区であり、概ね次の範囲を検討対象区域とする。

- ・ 沿岸部：羅臼側＝ルサから相泊一帯
斜里側＝ホロベツから知床大橋一帯
- ・ 山岳部：知西別岳から硫黄山一帯

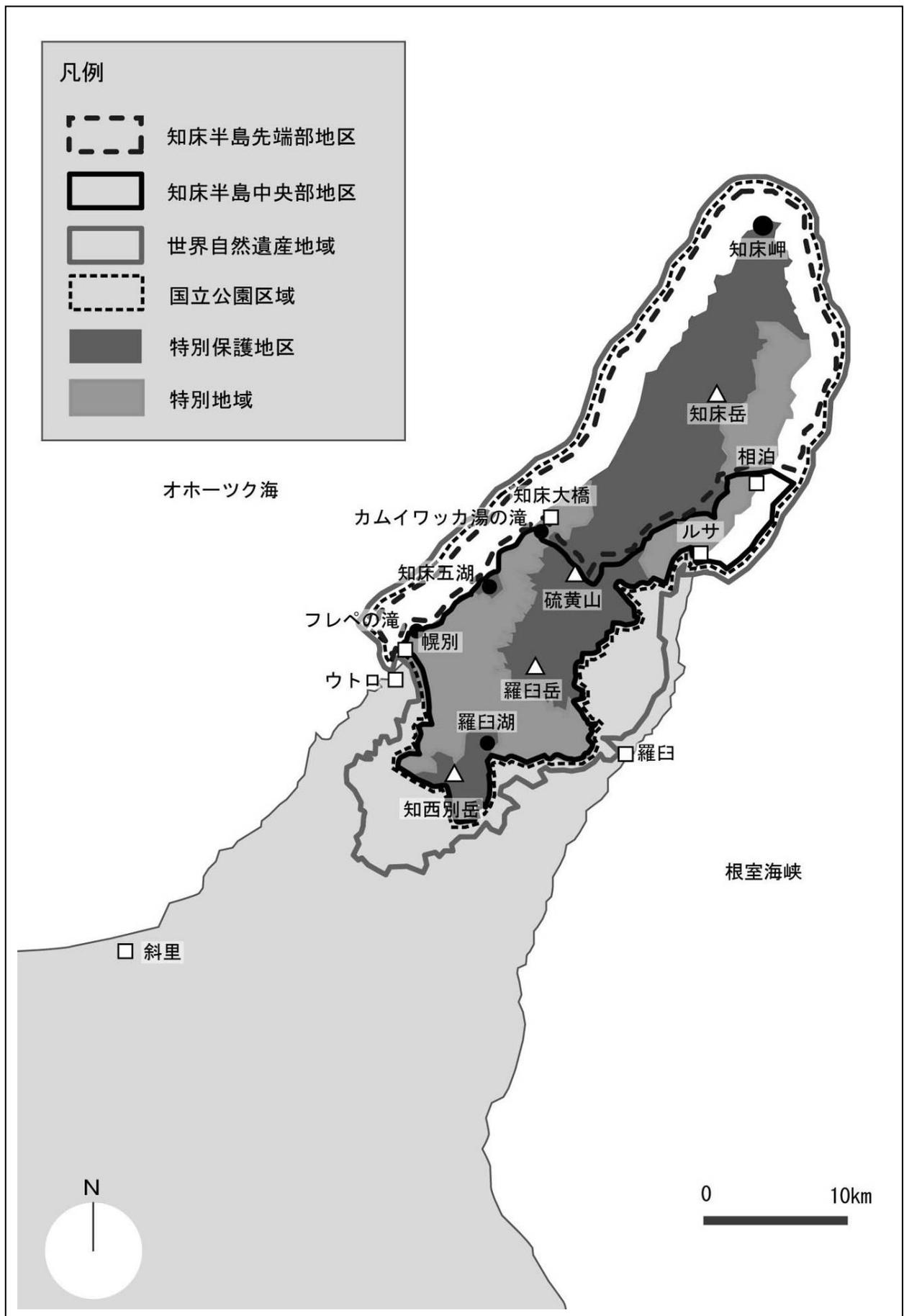
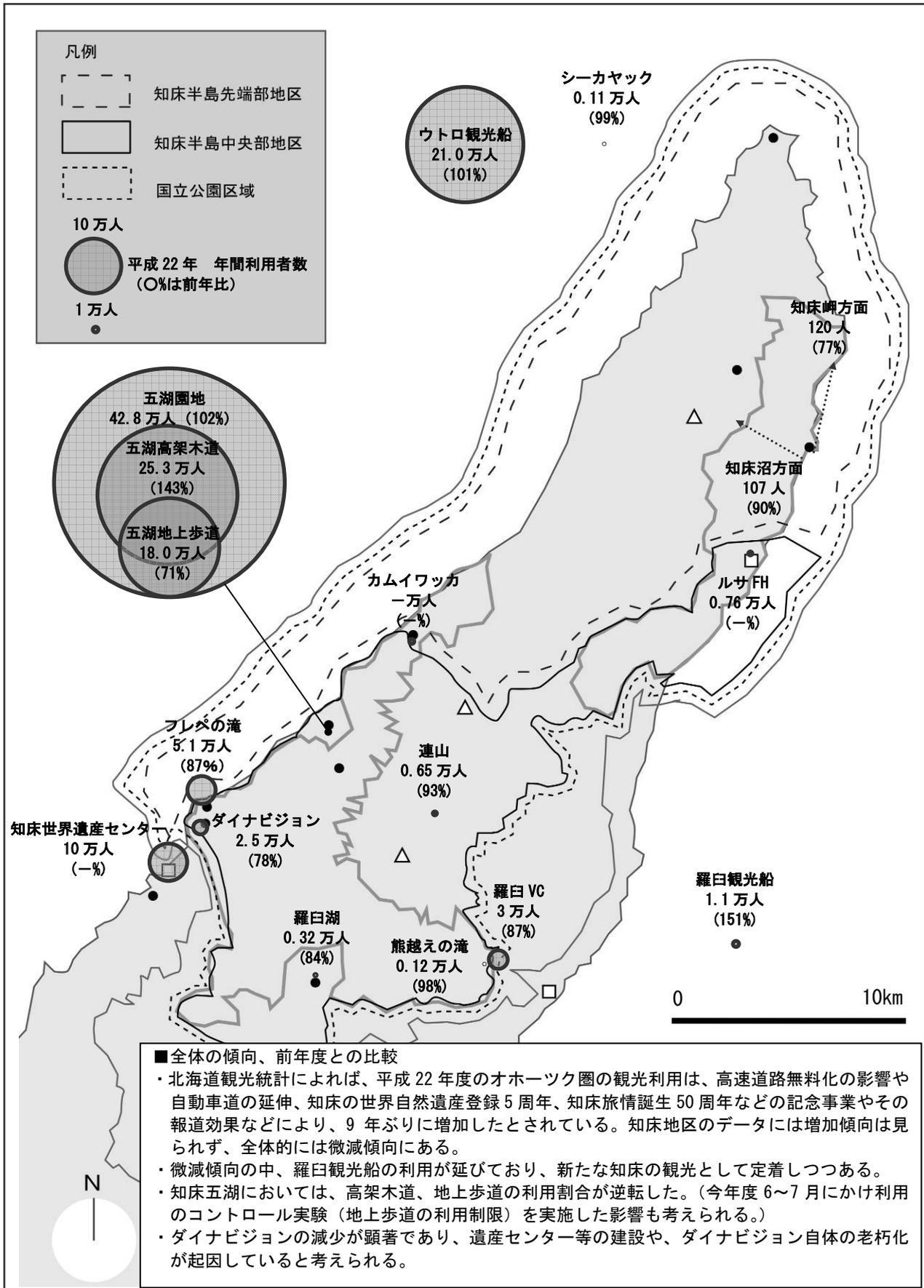


図 知床半島先端部及び知床半島中央部位置図

2. 利用状況

(1) 公園全体の状況 1) 知床国立公園全体の利用状況

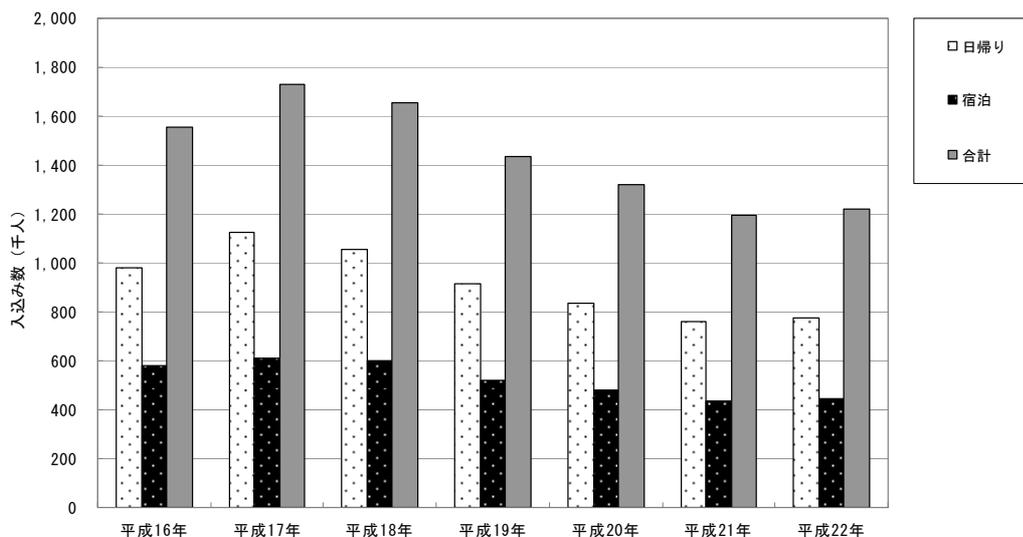


2) 斜里町の観光入込み数

表：斜里町の観光客入込み数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考
平成16年	①日帰り利用者数(人)	4,206	79,149	51,953	12,924	37,080	71,552	132,369	223,980	174,704	167,221	8,311	14,889	978,338	
	②宿泊利用者数(人)	16,939	45,521	33,128	17,813	54,900	64,406	75,369	87,726	75,924	66,539	25,219	14,759	578,243	
	③入込み数合計(人)	21,145	124,670	85,081	30,737	91,980	135,958	207,738	311,706	250,628	233,760	33,530	29,648	1,556,581	
平成17年	①日帰り利用者数(人)	4,666	87,581	55,140	12,117	31,719	70,421	140,630	273,256	218,380	206,918	9,941	13,047	1,123,816	
	②宿泊利用者数(人)	18,793	50,371	35,160	16,701	46,963	63,388	80,073	93,819	85,084	74,762	30,166	12,933	608,213	
	③入込み数合計(人)	23,459	137,952	90,300	28,818	78,682	133,809	220,703	367,075	303,464	281,680	40,107	25,980	1,732,029	
平成18年	①日帰り利用者数(人)	4,222	71,258	48,562	12,542	36,627	77,741	139,982	245,930	202,246	194,627	8,495	13,100	1,055,332	
	②宿泊利用者数(人)	17,004	40,983	30,966	19,778	54,230	75,379	80,894	92,870	78,798	70,321	25,778	14,115	601,116	
	③入込み数合計(人)	21,226	112,241	79,528	32,320	90,857	153,120	220,876	338,800	281,044	264,948	34,273	27,215	1,656,448	
平成19年	①日帰り利用者数(人)	4,004	64,132	37,154	11,348	29,754	64,642	125,166	228,383	172,566	159,275	7,960	11,828	916,212	
	②宿泊利用者数(人)	16,126	35,274	23,692	17,896	44,054	62,678	72,332	86,244	67,234	57,548	24,156	12,745	519,979	
	③入込み数合計(人)	20,130	99,406	60,846	29,244	73,808	127,320	197,498	314,627	239,800	216,823	32,116	24,573	1,436,191	
平成20年	①日帰り利用者数(人)	4,117	64,533	37,276	9,519	28,654	57,896	105,576	199,531	162,979	147,650	8,599	11,061	837,391	
	②宿泊利用者数(人)	16,581	35,495	23,770	15,012	42,426	56,137	61,011	75,349	63,499	53,348	26,098	11,919	480,645	
	③入込み数合計(人)	20,698	100,028	61,046	24,531	71,080	114,033	166,587	274,880	226,478	200,998	34,697	22,980	1,318,036	
平成21年	①日帰り利用者数(人)	3,869	52,217	38,409	9,735	23,867	44,137	97,290	186,441	150,146	132,535	7,735	12,325	758,706	
	②宿泊利用者数(人)	15,583	28,721	24,493	15,354	35,338	42,796	56,223	70,406	58,499	47,887	23,476	16,104	434,880	
	③入込み数合計(人)	19,452	80,938	62,902	25,089	59,205	86,933	153,513	256,847	208,645	180,422	31,211	28,429	1,193,586	
平成22年	①日帰り利用者数(人)	4,025	57,871	37,675	9,769	22,241	44,695	100,591	195,918	153,795	131,489	7,231	9,494	774,794	
	②宿泊利用者数(人)	20,592	34,493	24,025	15,409	32,931	43,337	58,146	73,985	59,921	47,509	21,945	12,406	444,699	
	③入込み数合計(人)	24,617	92,364	61,700	25,178	55,172	88,032	158,737	269,903	213,716	178,998	29,176	21,900	1,219,493	
合計前年比		127%	114%	98%	100%	93%	101%	103%	105%	102%	99%	93%	77%	102%	
合計世界遺産登録前比		116%	74%	73%	82%	60%	65%	76%	87%	85%	77%	87%	74%	78%	平成16年比
合計ピーク年比		105%	67%	68%	87%	70%	66%	72%	74%	70%	64%	73%	84%	70%	平成17年比

グラフ：斜里町の観光客入込み数年次変化



出典：斜里町商工観光課

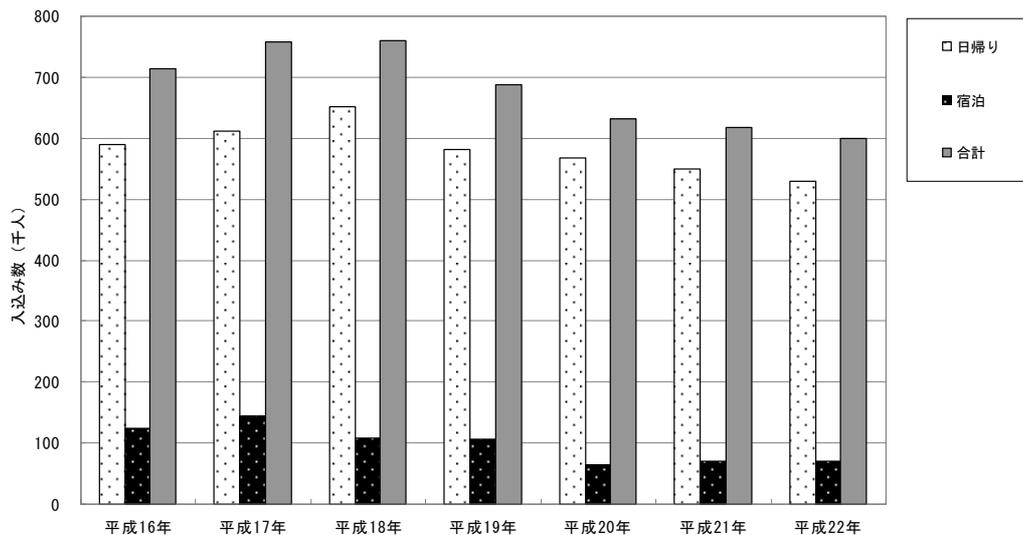
コメント：ほぼ前年並の利用となっている。

3) 羅臼町の観光入込み数

表：羅臼町の観光客入込み数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考	
平成16年	①日帰り利用者数(人)	2,811	4,546	4,097	8,471	72,902	47,037	125,684	157,165	104,911	55,423	3,707	3,563	590,317	
	②宿泊利用者数(人)	797	2,324	1,862	1,711	2,735	6,500	25,878	43,269	27,109	7,761	2,225	1,855	124,026	
	③入込み数合計(人)	3,608	6,870	5,959	10,182	75,637	53,537	151,562	200,434	132,020	63,184	5,932	5,418	714,343	
平成17年	①日帰り利用者数(人)	2,244	3,842	4,963	9,891	55,893	60,498	146,037	152,247	111,079	57,000	4,510	4,195	612,399	
	②宿泊利用者数(人)	1,586	2,903	1,633	1,129	2,227	5,701	27,058	59,587	29,790	10,053	1,899	1,587	145,153	
	③入込み数合計(人)	3,830	6,745	6,596	11,020	58,120	66,199	173,095	211,834	140,869	67,053	6,409	5,782	757,552	
平成18年	①日帰り利用者数(人)	2,359	4,346	5,670	10,122	57,038	63,603	158,884	169,075	111,272	61,266	3,874	3,871	651,380	
	②宿泊利用者数(人)	1,544	2,478	1,324	952	2,278	4,194	23,005	44,978	15,986	6,416	2,555	1,987	107,697	
	③入込み数合計(人)	3,903	6,824	6,994	11,074	59,316	67,797	181,889	214,053	127,258	67,682	6,429	5,858	759,077	
平成19年	①日帰り利用者数(人)	2,428	3,809	5,237	9,388	54,787	63,479	114,072	143,533	111,572	63,175	4,990	4,289	580,759	
	②宿泊利用者数(人)	1,428	3,129	1,590	1,251	2,319	3,830	20,454	45,973	17,406	5,452	1,692	1,481	106,005	
	③入込み数合計(人)	3,856	6,938	6,827	10,639	57,106	67,309	134,526	189,506	128,978	68,627	6,682	5,770	686,764	
平成20年	①日帰り利用者数(人)	1,807	3,811	6,272	11,284	63,339	49,019	108,762	148,595	103,929	62,043	4,735	4,041	567,637	
	②宿泊利用者数(人)	2,031	2,876	2,174	1,107	1,743	3,517	6,184	25,290	12,201	3,588	1,807	1,610	64,128	
	③入込み数合計(人)	3,838	6,687	8,446	12,391	65,082	52,536	114,946	173,885	116,130	65,631	6,542	5,651	631,765	
平成21年	①日帰り利用者数(人)	1,924	3,421	6,327	9,928	62,940	47,783	108,315	133,944	108,228	57,569	4,846	3,690	548,915	
	②宿泊利用者数(人)	1,943	2,774	1,551	1,624	2,348	3,499	5,833	28,456	14,569	3,464	1,680	1,654	69,395	
	③入込み数合計(人)	3,867	6,195	7,878	11,552	65,288	51,282	114,148	162,400	122,797	61,033	6,526	5,344	618,310	
平成22年	①日帰り利用者数(人)	1,559	2,062	5,267	9,016	62,328	44,897	107,053	150,027	83,415	55,912	3,936	3,293	528,765	
	②宿泊利用者数(人)	2,069	3,735	2,544	2,056	2,395	4,453	5,859	27,863	12,393	3,154	2,331	2,023	70,875	
	③入込み数合計(人)	3,628	5,797	7,811	11,072	64,723	49,350	112,912	177,890	95,808	59,066	6,267	5,316	599,640	
合計前年比	94%	94%	99%	96%	99%	96%	99%	110%	78%	97%	96%	99%	97%		
合計世界遺産登録前比	101%	84%	131%	109%	86%	92%	74%	89%	73%	93%	106%	98%	84%	平成16年比	
ピーク年比	93%	85%	112%	100%	109%	73%	62%	83%	75%	87%	97%	91%	79%	平成18年比	

グラフ：羅臼町の観光客入込み数年次変化



出典：羅臼町水産商工観光課

コメント：ほぼ前年並の利用となっている。

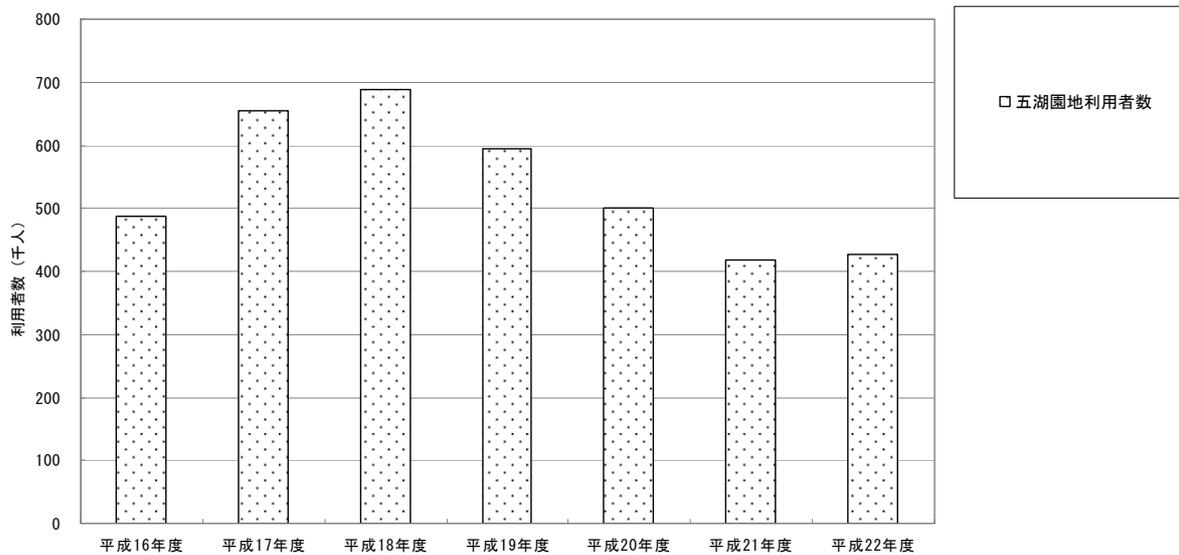
(2) 知床半島中央部地区の利用状況 1) 知床五湖地域

a. 五湖園地全体利用者数（駐車台数+シャトルバス利用）

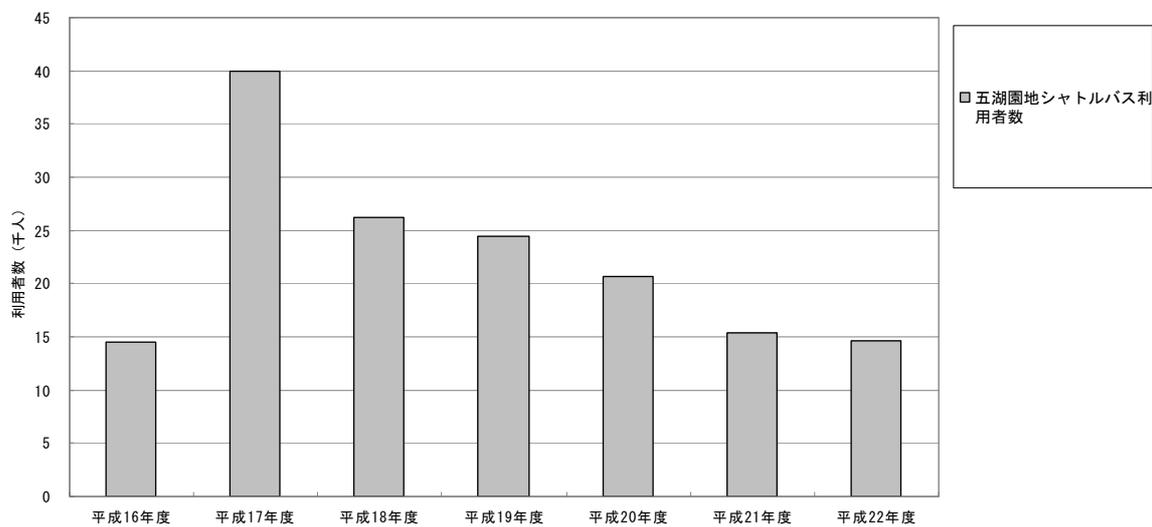
表：五湖園地全体利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計	備考
平成16年	①駐車場利用台数（台）	640	7,186	6,474	10,843	17,082	14,569	8,704	143	65,641	
	②駐車場利用（人）	4,285	70,361	60,777	69,454	98,500	97,692	70,688	1,288	473,045	車種別定員にて算出
	③シャトルバス利用（人）	-	-	-	-	17,226	-	-	-	17,226	運行：8月1日～8月23日
	④シャトルバス五湖利用（人）	-	-	-	-	14,522	-	-	-	14,522	③×0.843（五湖利用者）
	⑤利用者数合計（人）	4,285	70,361	60,777	69,454	113,022	97,692	70,688	1,288	487,567	②+④
平成17年	①駐車場利用台数（台）	490	6,107	8,767	15,034	21,741	17,449	12,043	1,167	82,798	7月世界遺産登録
	②駐車場利用（人）	3,749	59,333	75,344	97,751	122,386	134,254	113,607	9,009	615,433	車種別定員にて算出
	③シャトルバス利用（人）	-	-	-	9,904	26,918	10,624	-	-	47,446	運行：7月13日～9月20日
	④シャトルバス五湖利用（人）	-	-	-	8,349	22,692	8,956	-	-	39,997	③×0.843（五湖利用者）
	⑤利用者数合計（人）	3,749	59,333	75,344	106,100	145,078	143,210	113,607	9,009	655,430	②+④
平成18年	①駐車場利用台数（台）	627	8,401	10,675	16,259	20,867	16,454	10,234	1,036	84,553	
	②駐車場利用（人）	3,448	74,638	108,043	118,480	119,728	130,036	98,808	7,805	660,986	車種別定員にて算出
	③シャトルバス利用（人）	-	-	-	6,793	17,369	6,919	-	-	31,081	運行：7月13日～9月20日
	④シャトルバス五湖利用（人）	-	-	-	5,726	14,642	5,833	-	-	26,201	③×0.843（五湖利用者）
	⑤利用者数合計（人）	3,448	74,638	108,043	124,206	134,370	135,869	98,808	7,805	687,187	②+④
平成19年	①駐車場利用台数（台）	1,185	7,096	8,612	12,794	20,304	14,975	9,297	534	74,797	
	②駐車場利用（人）	6,023	61,413	87,562	95,919	118,291	111,504	85,037	4,743	570,492	車種別定員にて算出
	③シャトルバス利用（人）	-	-	-	6,707	17,046	5,261	-	-	29,014	運行：7月13日～9月20日
	④シャトルバス五湖利用（人）	-	-	-	5,654	14,370	4,435	-	-	24,459	③×0.843（五湖利用者）
	⑤利用者数合計（人）	6,023	61,413	87,562	101,573	132,661	115,939	85,037	4,743	594,951	②+④
平成20年	①駐車場利用台数（台）	1,099	6,563	7,916	10,956	16,541	13,759	8,018	683	65,535	
	②駐車場利用（人）	6,264	54,848	75,046	79,642	95,035	95,323	70,561	4,263	480,982	車種別定員にて算出
	③シャトルバス利用（人）	-	-	-	5,293	14,637	4,607	-	-	24,537	運行：7月13日～9月20日
	④シャトルバス五湖利用（人）	-	-	-	4,462	12,339	3,884	-	-	20,685	③×0.843（五湖利用者）
	⑤利用者数合計（人）	6,264	54,848	75,046	84,104	107,374	99,207	70,561	4,263	501,667	②+④
平成21年	①駐車場利用台数（台）	559	6,919	7,981	10,898	16,045	13,519	6,349	455	62,725	
	②駐車場利用（人）	2,931	45,026	63,521	68,836	82,844	84,436	50,296	4,219	402,109	車種別定員にて算出
	③シャトルバス利用（人）	-	-	-	3,949	10,351	3,988	-	-	18,288	運行：7月13日～9月20日
	④シャトルバス五湖利用（人）	-	-	-	3,329	8,726	3,362	-	-	15,417	③×0.843（五湖利用者）
	⑤利用者数合計（人）	2,931	45,026	63,521	72,165	91,570	87,798	50,296	4,219	417,526	
平成22年	①駐車場利用台数（台）	682	6,993	8,730	12,975	18,172	14,159	8,426	470	70,607	
	②駐車場利用（人）	3,430	42,711	62,869	73,914	86,666	84,141	55,448	3,994	413,173	車種別定員にて算出
	③シャトルバス利用（人）	-	-	-	4,000	9,773	3,619	-	-	17,392	運行：7月13日～9月20日
	④シャトルバス五湖利用（人）	-	-	-	3,372	8,239	3,051	-	-	14,662	③×0.843（五湖利用者）
	⑤利用者数合計（人）	3,430	42,711	62,869	77,286	94,905	87,192	55,448	3,994	427,835	
合計前年比		117%	95%	99%	107%	104%	99%	110%	95%	102%	
合計世界遺産登録前比		80%	61%	103%	111%	84%	89%	78%	310%	88%	平成16年比
合計ピーク年比		99%	57%	58%	62%	71%	64%	56%	51%	62%	平成18年比

グラフ：五湖園地全体利用者数年次変化



グラフ：五湖園地シャトルバス利用者数年次変化



出典：自然公園財団及び斜里バス（株）

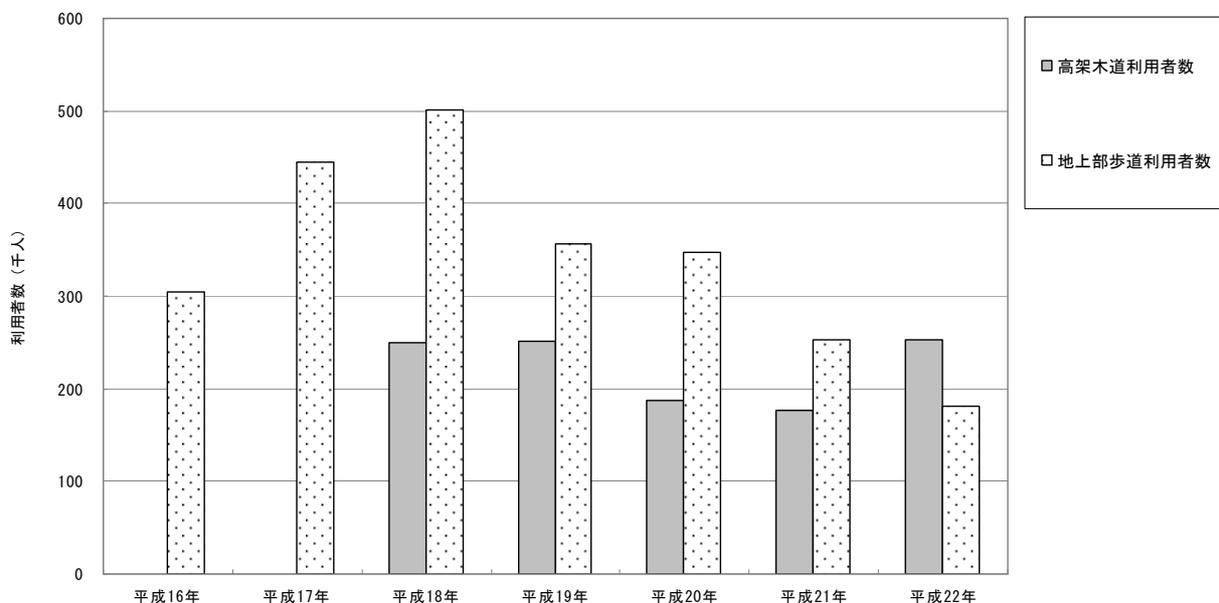
コメント：ほぼ前年並の利用となっている。

b. 高架木道・地上部歩道利用者数(五湖カウンター調査)

表：高架木道・地上部歩道利用者数

		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計	備考
平成16年	①高架木道利用者数(人)	-	-	-	-	-	-	-	-	供用前につき無し
	②地上部歩道利用者数(人)	33,866	14,663	32,374	88,512	75,038	54,914	5,318	304,685	退場数(全面閉鎖43日間)
平成17年	①高架木道利用者数(人)	-	-	-	-	-	-	-	-	供用前につき無し
	②地上部歩道利用者数(人)	29,305	42,380	62,263	103,930	107,405	84,341	14,311	443,935	退場数(全面閉鎖9日間)
平成18年	①高架木道利用者数(人)	31,340	38,352	42,897	44,680	47,949	37,540	7,313	250,071	退場数 新高架木道供用(現連山展望台まで)
	②地上部歩道利用者数(人)	46,668	74,653	87,508	106,308	101,894	73,314	10,159	500,504	退場数(全面閉鎖6日間)
平成19年	①高架木道利用者数(人)	24,263	52,858	59,283	40,980	37,651	31,005	5,443	251,483	退場数
	②地上部歩道利用者数(人)	42,048	33,566	37,040	94,758	82,791	60,907	5,828	356,938	退場数(全面閉鎖40日間)
平成20年	①高架木道利用者数(人)	17,919	24,601	33,078	40,303	35,351	31,457	5,342	188,051	退場数
	②地上部歩道利用者数(人)	35,454	48,532	55,795	81,277	74,165	45,988	6,728	347,938	退場数(全面閉鎖17日間)
平成21年	①高架木道利用者数(人)	20,755	25,013	32,870	37,006	34,442	20,868	5,092	176,046	2つのカウンターの入退数の平均 高架木道延長(オコツク展望台まで)
	②地上部歩道利用者数(人)	26,049	35,653	39,360	63,563	55,891	29,391	3,451	253,358	退場数(全面閉鎖12日間)
平成22年	①高架木道利用者数(人)	24,298	36,324	55,271	53,824	43,734	32,559	6,527	252,537	退場数 高架木道延長(湖畔展望台まで)
	②地上部歩道利用者数(人)	17,078	24,710	21,134	44,000	44,352	25,790	3,481	180,545	退場数(全面閉鎖30日間)
前年比 ①高架木道		117%	145%	168%	145%	127%	156%	128%	143%	
前年比 ②地上部歩道		66%	69%	54%	69%	79%	88%	101%	71%	
世界遺産登録前比 ②地上部歩道		50%	169%	65%	50%	59%	47%	65%	59%	平成16年比
ピーク年比 ①高架木道		100%	69%	93%	131%	116%	105%	120%	100%	平成19年比
ピーク年比 ②地上部歩道		37%	33%	24%	41%	44%	35%	34%	36%	平成18年比

グラフ：高架木道・地上部歩道利用者数年次変化



出典：環境省 カウンター調査

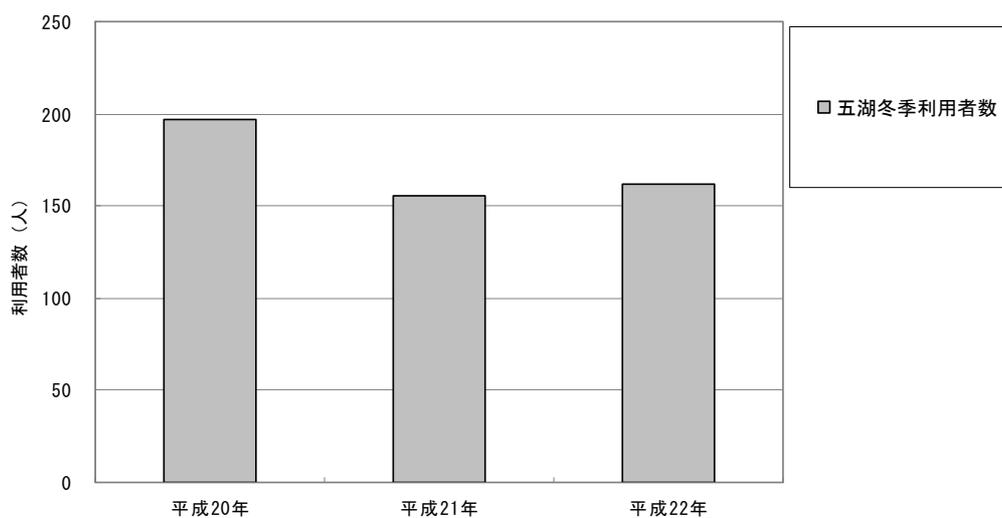
コメント：地上歩道は前年比 39%減。高架木道は前年比 43%増。(6月19日～7月19日まで五湖の利用のコントロール実験を実施し、地上歩道の3～5湖の立入りが規制。)

c. 冬季利用者数

表：冬季利用者数

	グループ数	利用者数	備考
平成20年	49	197	平成20年2月1日～3月22日 51日間 利用者数には引率者も含む
平成21年	46	156	平成21年1月31日～3月22日 51日間 利用者数には引率者も含む
平成22年	46	162	平成22年1月30日～3月22日 52日間 利用者数には引率者も含む
前年比	100%	104%	

グラフ：冬季利用者数年次変化



出典：斜里町商工観光課

コメント：ほぼ前年並の利用となっている。

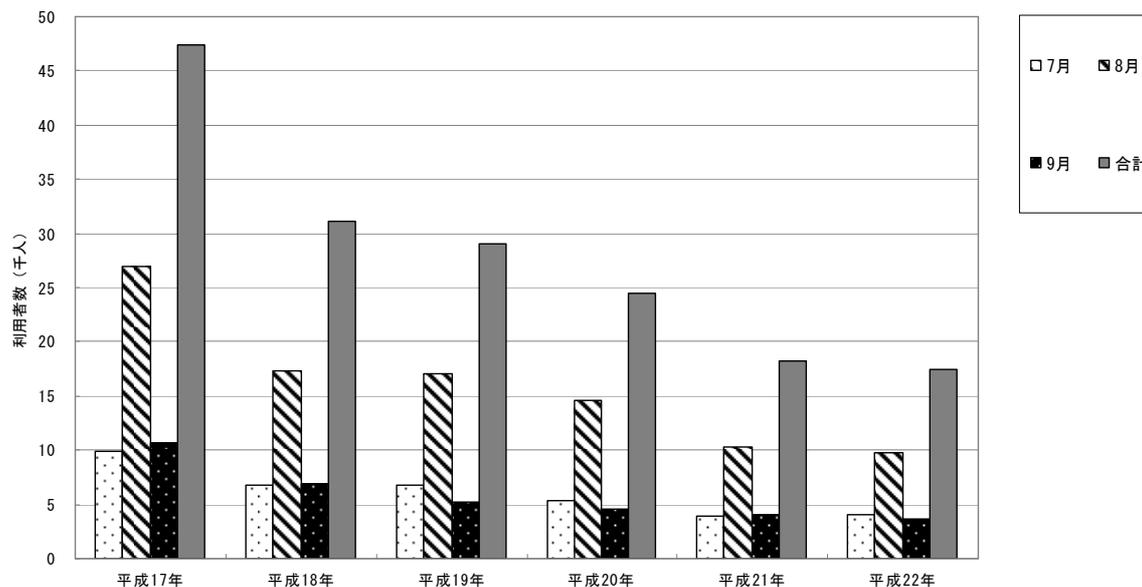
2) カムイワッカ地域

a. シャトルバス利用者数

表：シャトルバス利用者数（カムイワッカ以外の利用を含む）

		7月	8月	9月	計	備考
平成17年	シャトルバス利用（人）	9,904	26,918	10,624	47,446	
平成18年	シャトルバス利用（人）	6,793	17,369	6,919	31,081	
平成19年	シャトルバス利用（人）	6,707	17,046	5,261	29,014	カムイワッカ監視員カウント数13,802人
平成20年	シャトルバス利用（人）	5,293	14,637	4,607	24,537	カムイワッカ監視員カウント数12,394人
平成21年	シャトルバス利用（人）	3,949	10,351	3,988	18,288	カムイワッカ監視員カウント数9,378人
平成22年	シャトルバス利用（人）	4,000	9,773	3,619	17,392	カムイワッカ監視員カウント数9,754人
前年比		101%	94%	91%	95%	
ピーク年比		40%	36%	34%	37%	平成17年比

グラフ：シャトルバス利用者数の年次変化（カムイワッカ以外の利用を含む）



出典：カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会

コメント：ほぼ前年並の利用となっている。

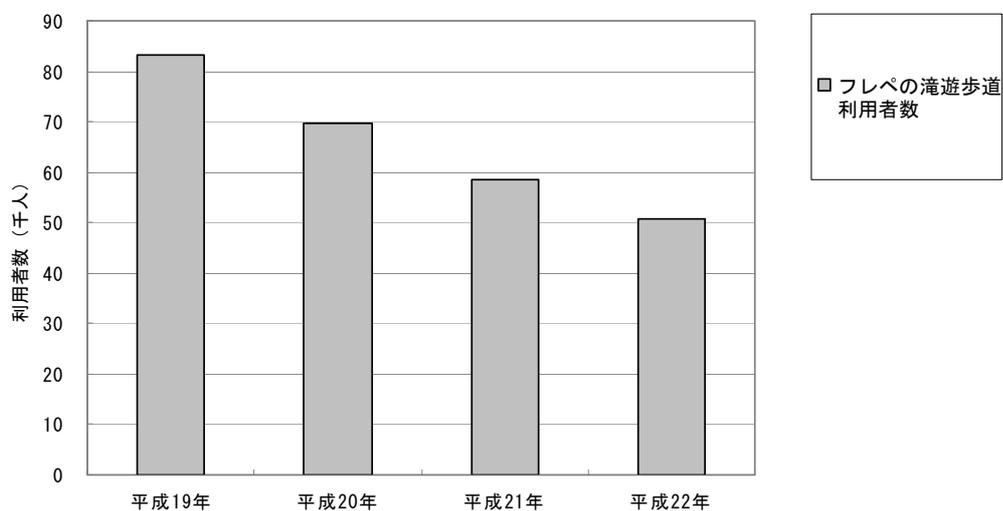
3) ホロボツ地区

a. フレペの滝利用者数（フレペの滝カウンター調査）

表：フレペの滝利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計	備考
平成18年	利用者数（人）	—	—	8,911	17,604	23,779	18,443	11,088	—	—	退場数 調査期間が短いため参考値
平成19年	利用者数（人）	1,365	5,327	11,066	17,757	21,719	14,390	9,275	2,639	83,538	退場数
平成20年	利用者数（人）	976	4,873	9,346	12,348	18,230	12,901	8,503	2,689	69,866	退場数
平成21年	利用者数（人）	1,545	5,292	6,644	11,031	14,677	12,515	5,124	1,560	58,388	入場数 入場者数の方が多いため
平成22年	利用者数（人）	883	3,584	5,083	9,433	13,093	11,789	5,487	1,538	50,889	退場数
	前年比	57%	68%	77%	86%	89%	94%	107%	99%	87%	
	ピーク年比	65%	67%	46%	53%	60%	82%	59%	58%	61%	平成19年比

グラフ：フレペの滝利用者数年次変化



出典：環境省 カウンター調査

コメント：前年比 23%減。

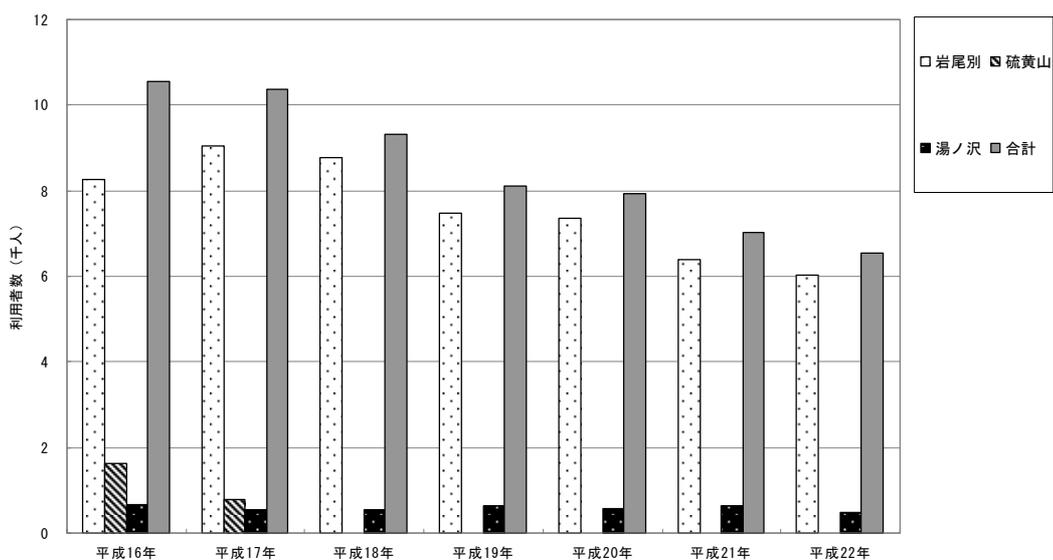
4) 知床連山地域

a. 連山登山道利用者数（岩尾別、湯ノ沢カウンター調査）

表：知床連山利用者数

		6月	7月	8月	9月	10月	計	備考
平成16年	岩尾別（人）	668	3,628	2,490	1,199	270	8,255	下山数
	硫黄山（人）	136	667	354	355	127	1,639	
	湯ノ沢（人）	79	136	221	136	79	651	下山数
	合計（人）	883	4,431	3,065	1,690	476	10,545	
平成17年	岩尾別（人）	589	3,798	2,638	1,720	295	9,040	下山数
	硫黄山（人）		385	311	80		776	
	湯ノ沢（人）	105	111	163	125	52	556	下山数
	合計（人）	695	4,294	3,112	1,925	346	10,372	
平成18年	岩尾別（人）	414	4,386	2,248	1,466	259	8,773	下山数
	湯ノ沢（人）	55	127	172	129	60	543	下山数
	合計（人）	469	4,513	2,420	1,595	319	9,316	
平成19年	岩尾別（人）	417	3,461	2,214	1,130	252	7,474	下山数
	湯ノ沢（人）	89	132	227	129	57	634	下山数
	合計（人）	506	3,593	2,441	1,259	309	8,108	
平成20年	岩尾別（人）	697	3,301	1,873	1,176	309	7,355	下山数
	湯ノ沢（人）	72	131	149	173	60	585	下山数
	合計（人）	769	3,432	2,022	1,349	369	7,940	
平成21年	岩尾別（人）	563	2,635	1,899	1,148	145	6,390	下山数
	湯ノ沢（人）	54	168	199	189	27	637	下山数
	合計（人）	617	2,803	2,098	1,337	172	7,027	
平成22年	岩尾別（人）	481	2,442	1,937	910	271	6,041	下山数
	湯ノ沢（人）	68	101	197	88	33	487	下山数
	合計（人）	549	2,543	2,134	998	304	6,528	
合計前年比		89%	91%	102%	75%	177%	93%	
合計世界遺産登録前比		62%	57%	70%	59%	64%	62%	平成16年比
合計ピーク年比		62%	57%	70%	59%	64%	62%	平成16年比

グラフ：知床連山利用者数の年次変化

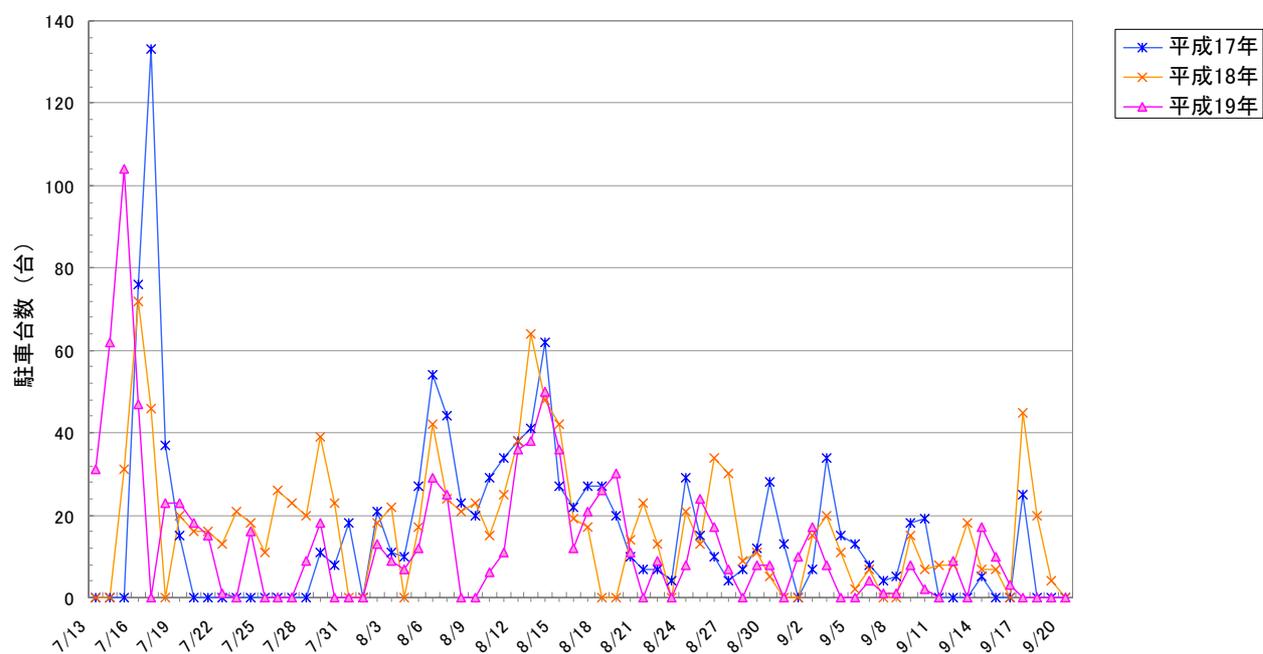


出典：環境省 カウンター調査

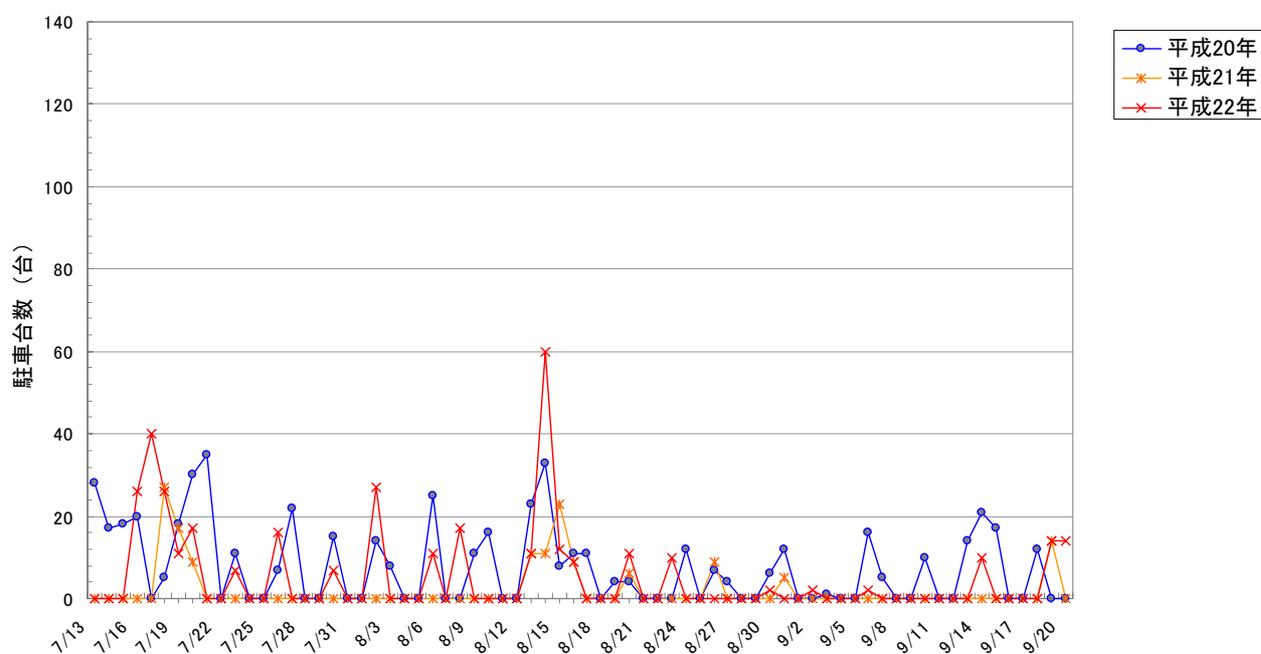
コメント：前年比7%減。(8月26日～9月2日羅臼岳登山道自粛要請実施※ヒグマ出没による)

b. ハイシーズン（7～9月）の岩尾別登山口路上駐車台数

グラフ：ハイシーズン（7～9月）の岩尾別登山口路上駐車台数（平成17年～19年）



グラフ：ハイシーズン（7～9月）の岩尾別登山口路上駐車台数（平成20年～22年）



出典：環境省 路上駐車台数調査

コメント：最大60台/日。（8月14日）昨年よりも集中が目立ち、8月中旬の集中は平成17年と同等。

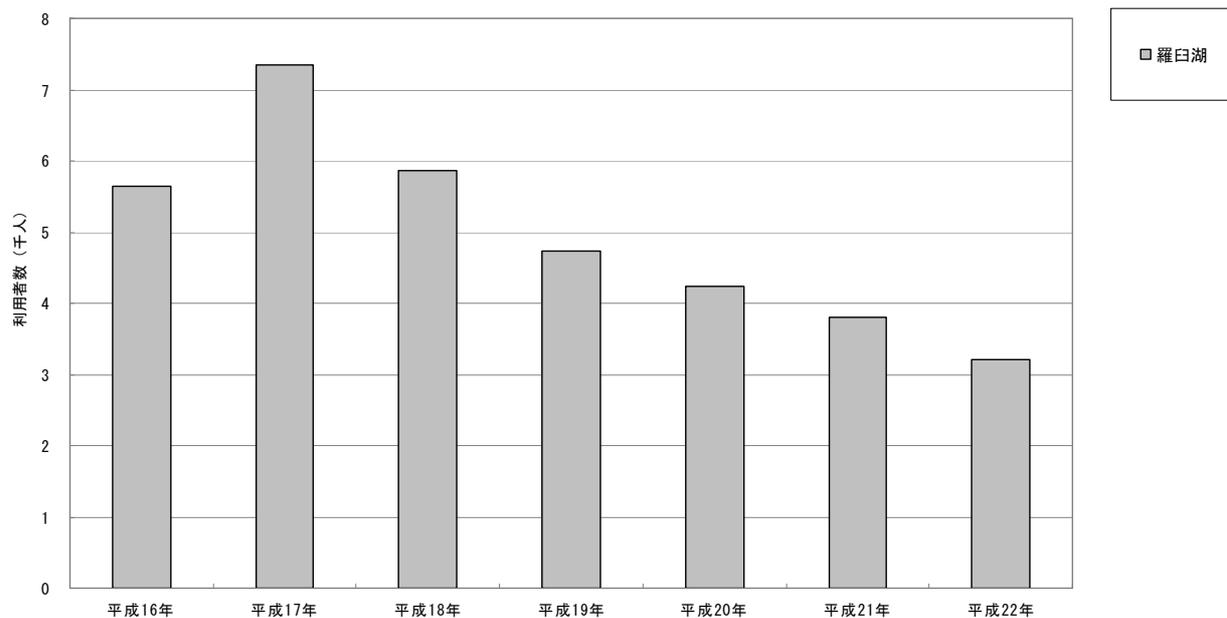
5) 羅臼湖地域

a. 羅臼湖登山道利用者数（羅臼湖カウンター調査）

表：羅臼湖登山道利用者数

		6月	7月	8月	9月	10月	11月	計	備考
平成16年	利用者（人）	748	1,423	1,536	1,247	681	—	5,635	下山数 6月の設置が11日長い
平成17年	利用者（人）	598	1,321	2,302	1,672	1,394	66	7,353	下山数 6月の設置が11日長い
平成18年	利用者（人）	312	2,130	1,662	1,287	448	25	5,864	下山数
平成19年	利用者（人）	179	1,434	1,568	938	609	2	4,730	下山数
平成20年	利用者（人）	438	937	1,173	1,024	669	—	4,241	下山数
平成21年	利用者（人）	268	927	1,293	1,065	257	—	3,810	下山数（設置期間：6/18～10/19）
平成22年	利用者（人）	268	810	1,095	767	275	—	3,215	下山数（設置期間：6/18～10/19）
前年比		100%	87%	85%	72%	107%	—	84%	
世界遺産登録前比		36%	57%	71%	62%	40%	—	57%	平成16年比
ピーク年比		45%	61%	48%	46%	20%	—	44%	平成17年比

グラフ：羅臼湖登山道利用者数年次変化



出典：環境省 カウンター調査

コメント：前年比16%減。

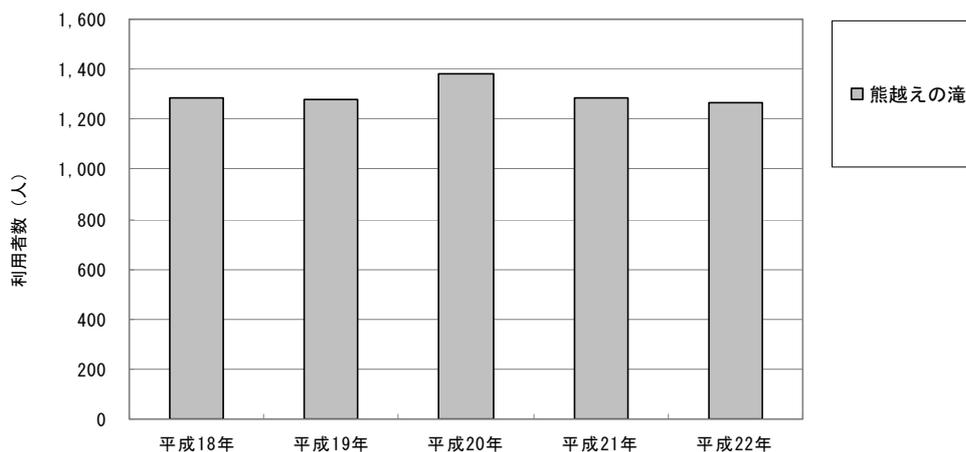
6) 羅臼温泉地区

a. 熊越えの滝利用者数（熊越えの滝カウンター調査）

表：熊越えの滝歩道利用者数

		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計	備考
平成18年	利用者数（人）	—	153	324	393	229	176	12	1,287	下山数
平成19年	利用者数（人）	—	221	266	330	199	246	14	1,276	下山数
平成20年	利用者数（人）	41	203	304	274	267	290	—	1,379	下山数
平成21年	利用者数（人）	29	154	290	380	320	114	—	1,287	下山数（設置期間：5/19～10/19）
平成22年	利用者数（人）	27	251	240	414	232	103	—	1,267	下山数（設置期間：5/25～10/27）
前年比		93%	163%	83%	109%	73%	90%	—	98%	

グラフ：熊越えの滝歩道利用者数年次変化



出典：環境省 カウンター調査

コメント：ほぼ前年並。

(3) 知床半島先端部地区の利用状況 1) 知床岬、知床沼、知床岳地域

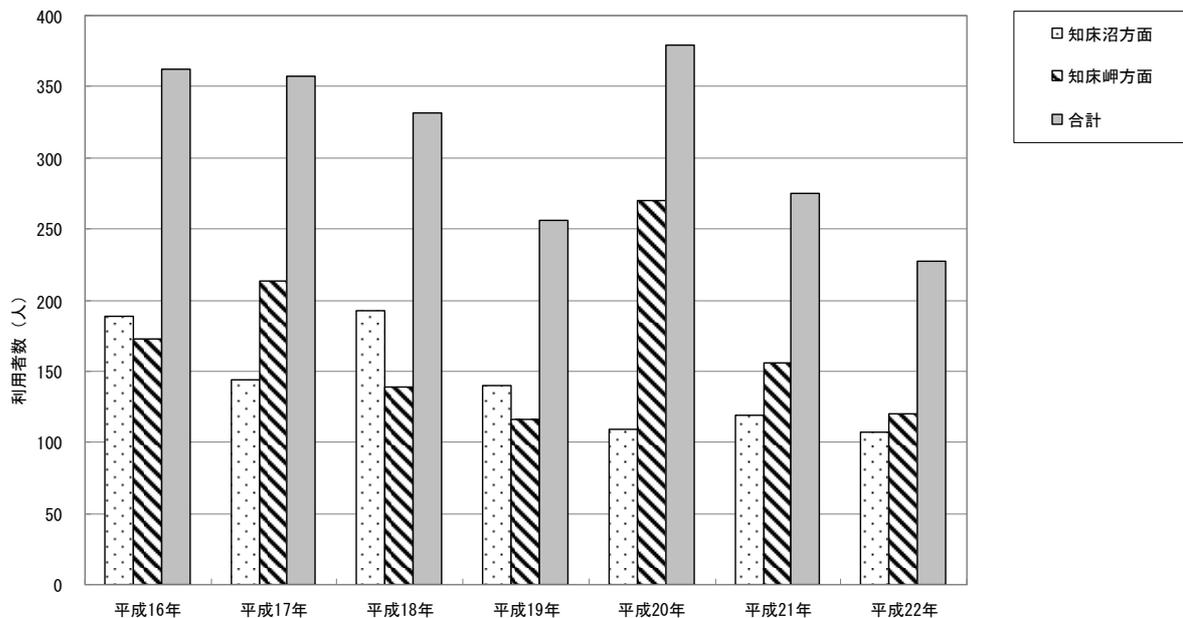
a. 陸路による知床岬、知床沼方面利用者数（ウナキベツ・観音岩カウンター調査）

表：陸路による知床岬、知床沼方面利用者数

		6月	7月	8月	9月	10月	計	備考
平成16年	知床岬・知床沼方面入山者 (A)	30	151	110	56	15	362	観音岩カウンター
	知床沼方面入山者 (B)	12	94	50	21	12	189	ウナキベツカウンター
	知床岬方面 (A-B)	18	57	60	35	3	173	
平成17年	知床岬・知床沼方面入山者 (A)	34	134	144	45	0	357	世界遺産登録
	知床沼方面入山者 (B)	18	33	69	21	3	144	
	知床岬方面 (A-B)	16	101	75	24	0	213	
平成18年	知床岬・知床沼方面入山者 (A)	36	120	134	28	14	332	
	知床沼方面入山者 (B)	43	39	88	22	1	193	
	知床岬方面 (A-B)	0	81	46	6	13	139	
平成19年	知床岬・知床沼方面入山者 (A)	6	117	97	26	10	256	設置期間：5/31～11/26
	知床沼方面入山者 (B)	24	31	70	15	0	140	設置期間：5/31～11/11
	知床岬方面 (A-B)	0	86	27	11	10	116	
平成20年	知床岬・知床沼方面入山者 (A)	27	111	194	35	12	379	設置期間：5/13～11/27
	知床沼方面入山者 (B)	32	14	42	21	0	109	5月の利用者数： (A) 6名、(B) 11名
	知床岬方面 (A-B)	0	97	152	14	12	270	11月は利用者無し
平成21年	知床岬・知床沼方面入山者 (A)	25	96	103	45	6	275	設置期間：5/14～11/4
	知床沼方面入山者 (B)	42	9	39	29	0	119	5月の利用者数： (A) 25名、(B) 40名
	知床岬方面 (A-B)	0	87	64	16	6	156	11月は利用者無し
平成22年	知床岬・知床沼方面入山者 (A)	10	91	95	25	6	227	設置期間：5/10～11/5
	知床沼方面入山者 (B)	21	21	41	24	0	107	5月の利用者数： (A) 8名、(B) 22名
	知床岬方面 (A-B)	0	70	54	1	6	120	11月は利用者無し
前年比 知床沼方面B		50%	233%	105%	83%	100%	90%	
前年比 知床岬方面A-B		100%	80%	84%	6%	100%	77%	
世界遺産登録前比 知床沼方面B		0%	74%	108%	5%	50%	63%	平成16年比
世界遺産登録前比 知床岬方面A-B		0%	123%	90%	3%	200%	69%	平成16年比

※知床岬方面がマイナス値になる場合は0に置き換えている

グラフ：陸路による知床岬、知床沼方面利用者数年次変化



出典：環境省 カウンター調査

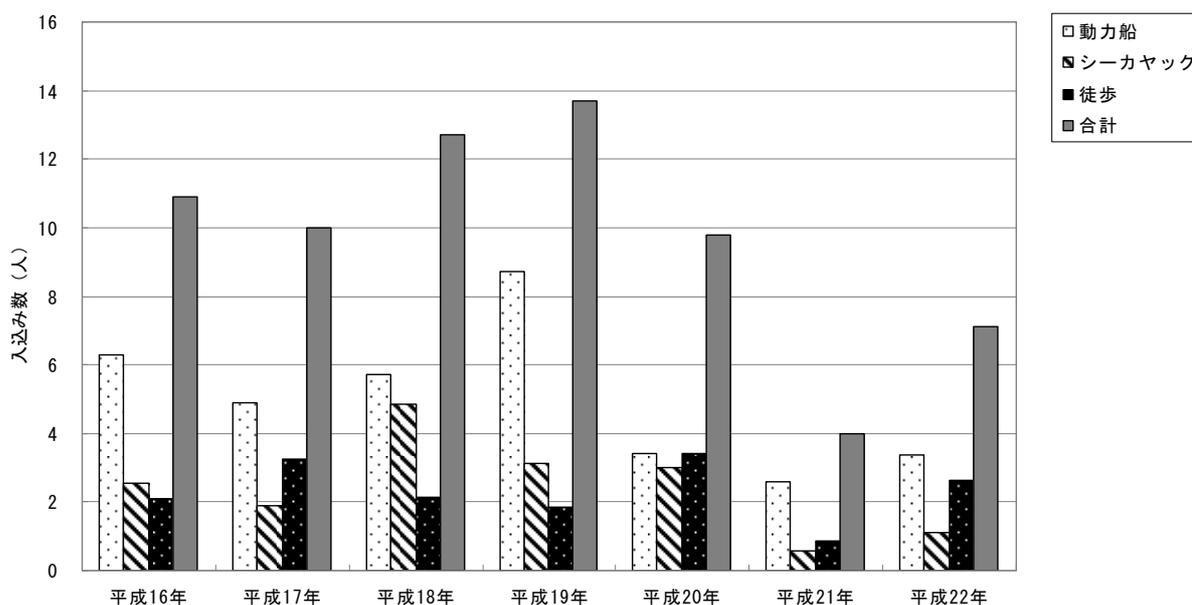
コメント：知床岬方面前年比 23%減。知床沼方面 10%減。(7月14日～15日知床岬トレッキング自粛要請実施※ヒグマ出没による)

b. ハイシーズン（8月中旬）の知床岬入込み数と1日あたり平均入込み数（現地実態調査）

表：ハイシーズン（8月中旬）の知床岬入込み数と1日あたり平均入込み数

	動力船			シーカヤック			徒歩			1日平均計	備考	
	グループ	人数	1日平均	グループ	人数	1日平均	グループ	人数	1日平均	人数	期間	日数
平成16年	14	69	6.3	5	28	2.5	9	23	2.1	10.9	8/6~16	11
平成17年	8	39	4.9	5	15	1.9	5	26	3.3	10.0	8/12~19	8
平成18年	10	40	5.7	4	34	4.9	5	15	2.1	12.7	8/11~17	7
平成19年	11	61	8.7	7	22	3.1	5	13	1.9	13.7	8/11~17	7
平成20年	6	17	3.4	2	15	3.0	2	17	3.4	9.8	8/14~18	5
平成21年	6	18	2.6	4	4	0.6	2	6	0.9	4.0	8/9~15	7
平成22年	6	27	3.4	3	9	1.1	5	21	2.6	7.1	8/7~14	8
前年比	100%	150%	131%	75%	225%	197%	250%	350%	306%	178%		
世界遺産登録前比	43%	39%	54%	60%	32%	44%	56%	91%	126%	65%	平成16年比	

グラフ：ハイシーズン（8月中旬）の知床岬入込み数と1日あたり平均入込み数年次変化



出典：環境省 平成21年度国立公園等民間活用特定自然環境保全活動事業
知床世界遺産地域における利用の適正化と野生動物との共生推進業務

コメント：昨年より増加したが、ここ3ヶ年は1日あたり、10人以下が平均となっている。

2) 観光船

a. ウトロ及び羅臼地区観光船利用者数

表：ウトロ観光船利用者数（観光船業者 8 社中、3 社のデータ）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計	備考
平成19年	ウトロ地区（人）	1,986	14,462	51,377	52,690	71,453	38,094	17,306	247,368	
	アンケート回収率動案値（人）	2,309	16,816	59,741	61,267	83,085	44,295	20,123	287,637	乗船定員989名/1145名=0.86
平成20年	ウトロ地区（人）	2,028	22,269	42,049	47,962	50,278	39,989	23,359	227,934	
	アンケート回収率動案値（人）	2,386	26,199	49,469	56,426	59,151	47,046	27,481	268,158	乗船定員946名/1114名=0.85
平成21年	ウトロ地区（人）	608	16,063	32,169	32,664	46,872	31,226	11,315	170,917	
	アンケート回収率動案値（人）	741	19,589	39,230	39,834	57,161	38,080	13,799	208,435	乗船定員955名/1163名=0.82
平成22年	ウトロ地区（人）	1,037	13,858	27,236	33,906	50,748	26,477	17,195	170,457	
	アンケート回収率動案値（人）	1,280	17,109	33,625	41,859	62,652	32,688	21,228	210,441	乗船定員943名/1163名=0.81
前年比		173%	87%	86%	105%	110%	86%	154%	101%	

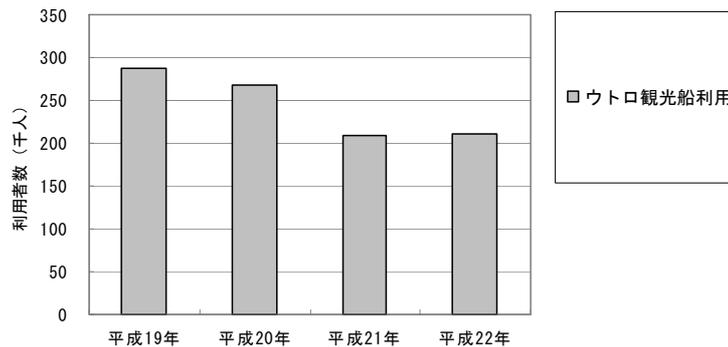
※観光船事業者全船舶の合計定員と、回収できた事業者の船舶の合計定員から、回収率を算定

表：羅臼観光船利用者数（観光船業者 4 社中、4 社のデータ）

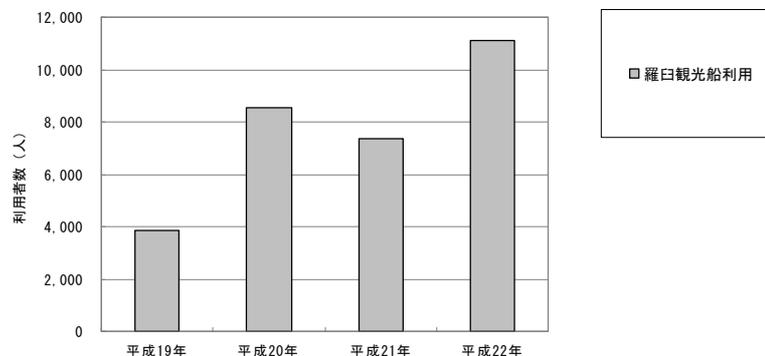
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考
平成19年	羅臼地区（人）	無	1,031	128	383	74	316	355	1,225	577	94	24	0	4,207	
	アンケート回収率動案値（人）	無	1,031	128	11	74	316	355	1,225	577	94	24	0	3,835	乗船定員383名/383名=1.0
平成20年	羅臼地区（人）	29	1,516	631	288	423	615	1,252	2,300	1,332	170	未	未	8,555	
	アンケート回収率動案値（人）	29	1,516	631	288	423	615	1,252	2,300	1,332	170	0	0	8,555	乗船定員357名/357名=1.0
平成21年	羅臼地区（人）	10	541	389	128	661	580	1,370	2,329	1,157	194	未	未	7,359	
	アンケート回収率動案値（人）	10	541	389	128	661	580	1,370	2,329	1,157	194	未	未	7,359	乗船定員344名/344名=1.0
平成22年	羅臼地区（人）	25	1,793	486	64	599	807	1,618	3,829	1,437	472	未	未	11,130	
	アンケート回収率動案値（人）	25	1,793	486	64	599	807	1,618	3,829	1,437	472	未	未	11,130	乗船定員344名/344名=1.0
前年比		250%	331%	125%	50%	91%	139%	118%	164%	124%	243%	—	—	151%	

※観光船事業者全船舶の合計定員と、回収できた事業者の船舶の合計定員から、回収率を算定

グラフ：ウトロ地区観光船利用者数年次変化



グラフ：羅臼地区観光船利用者数年次変化



本業務によるアンケート調査

コメント：ウトロ地区は前年並。羅臼地区は51%増。

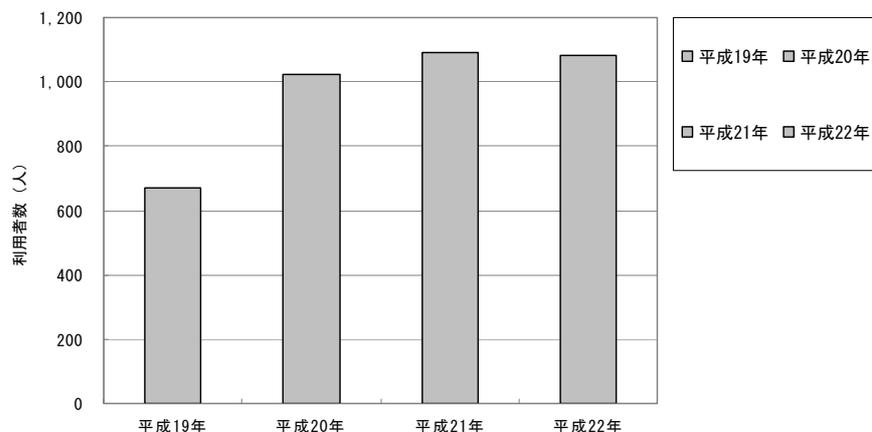
3) シーカヤック

a. シーカヤック利用者数

表：シーカヤック利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計	備考
平成19年	シーカヤック利用（人）	15	21	39	162	324	108	2	671	
	アンケート回収率勘案値（人）	15	21	39	162	324	108	2	671	4社/4社=1.0
平成20年	シーカヤック利用（人）	15	25	23	227	448	246	40	1,024	
	アンケート回収率勘案値（人）	15	25	23	227	448	246	40	1,024	4社/4社=1.0
平成21年	シーカヤック利用（人）	3	79	86	207	481	227	9	1,092	
	アンケート回収率勘案値（人）	3	79	86	207	481	227	9	1,092	4社/4社=1.0
平成22年	シーカヤック利用（人）	0	71	81	225	527	167	13	1,084	
	アンケート回収率勘案値（人）	0	71	81	225	527	167	13	1,084	4社/4社=1.0
前年比		0%	90%	94%	109%	110%	74%	144%	99%	

グラフ：シーカヤック利用者数年次変化



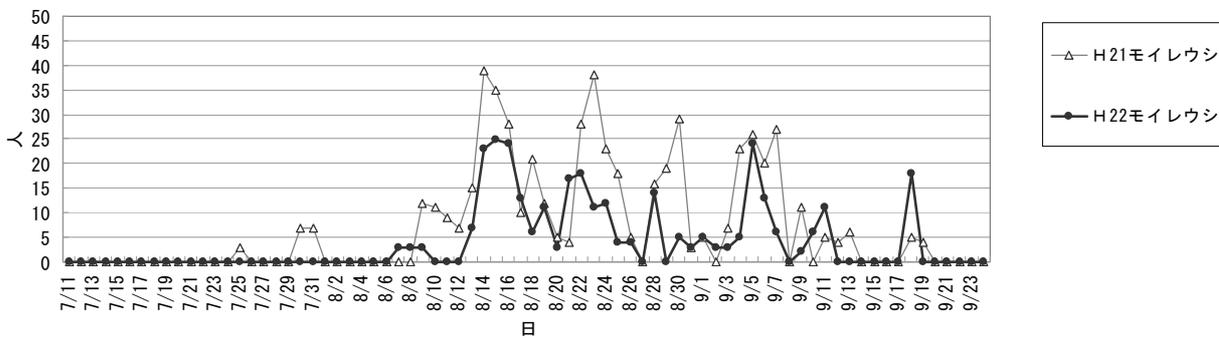
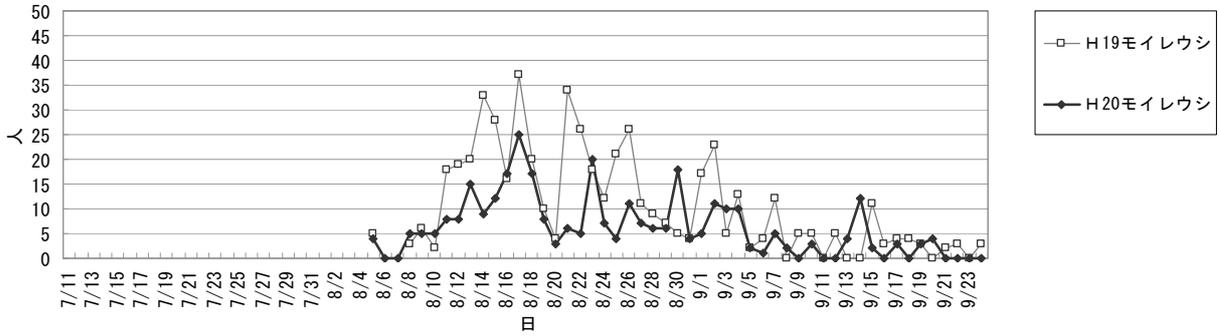
本業務によるアンケート調査

コメント：ほぼ前年並。

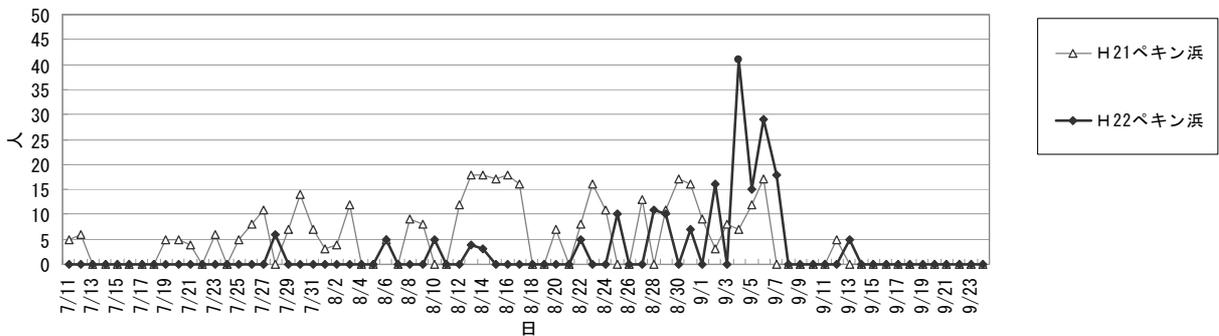
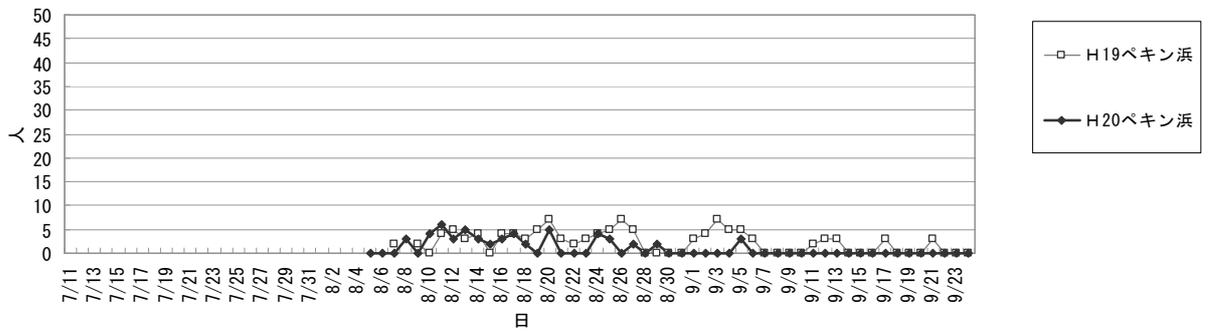
4) 河口部

a. サケマス釣りの利用者数

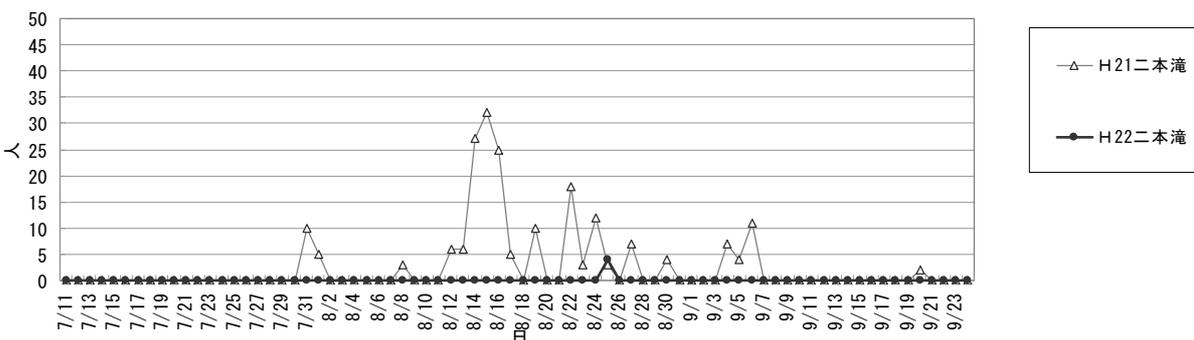
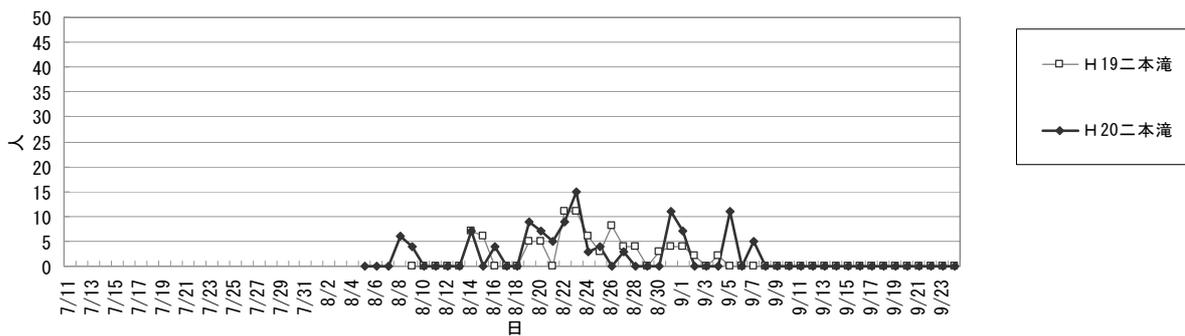
グラフ：モイレウシ地区 サケマス釣り利用者数（日入り込み（累計））※2年毎



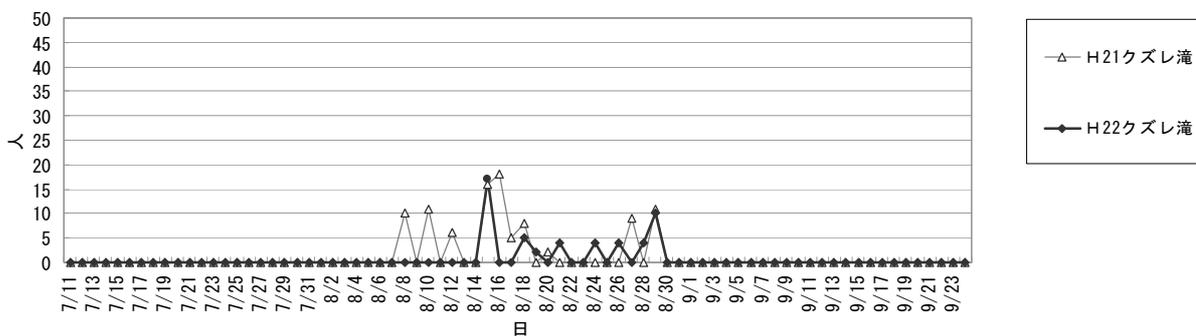
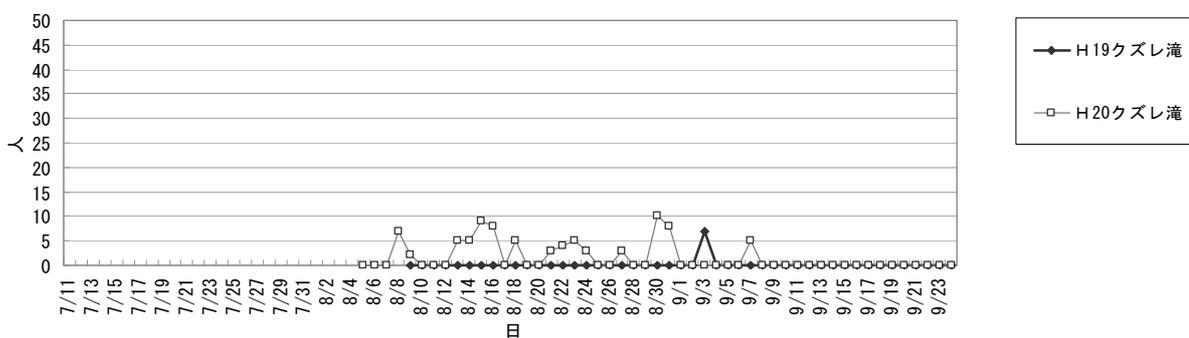
グラフ：ペキン浜地区 サケマス釣り利用者数（日入り込み（累計））※2年毎



グラフ：二本滝地区 サケマス釣り利用者数（日入り込み（累計））※2年毎



グラフ：クズレ滝地区 サケマス釣り利用者数（日入り込み（累計））※2年毎



本業務によるアンケート調査

コメント：ペキン浜 41 人/日が最大の立ち入り数。全般的に利用が少ない。

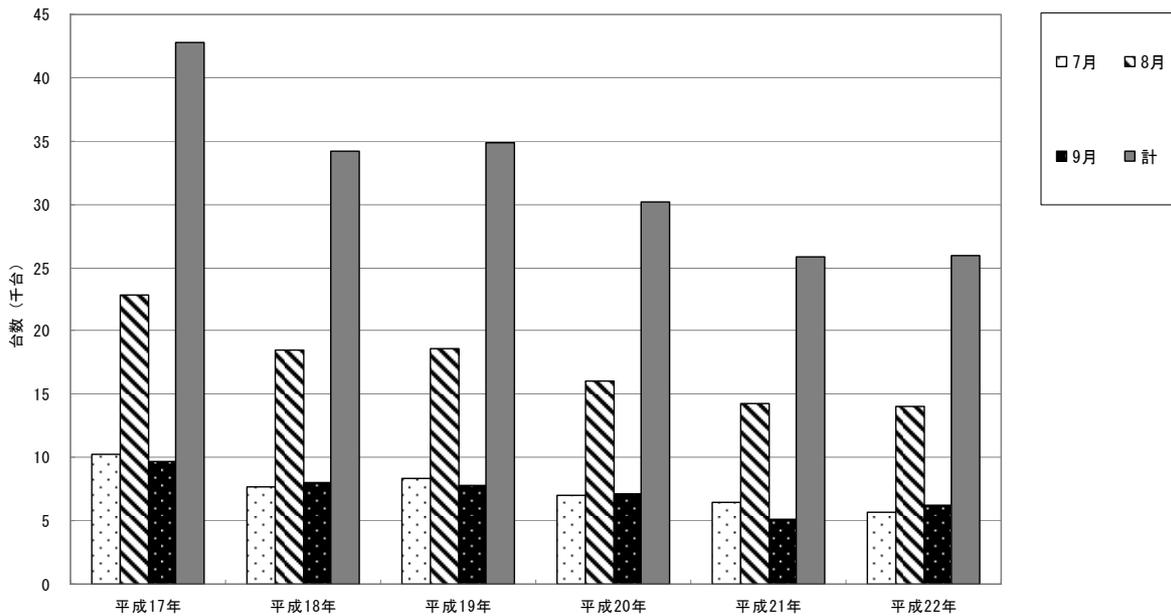
(4) 施設利用状況

1) 知床自然センター駐車台数（マイカー規制実施期間）

表：知床自然センター駐車台数

		7月	8月	9月	計	備考
平成17年	駐車台数（台）	10,243	22,870	9,702	42,815	
平成18年	駐車台数（台）	7,633	18,516	8,047	34,196	
平成19年	駐車台数（台）	8,388	18,589	7,839	34,816	
平成20年	駐車台数（台）	7,014	16,071	7,122	30,207	
平成21年	駐車台数（台）	6,496	14,260	5,079	25,835	
平成22年	駐車台数（台）	5,699	14,007	6,291	25,997	
前年比		88%	98%	124%	101%	
ピーク年比		56%	61%	65%	61%	平成17年比

グラフ：知床自然センター駐車台数年次変化



出典：カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会

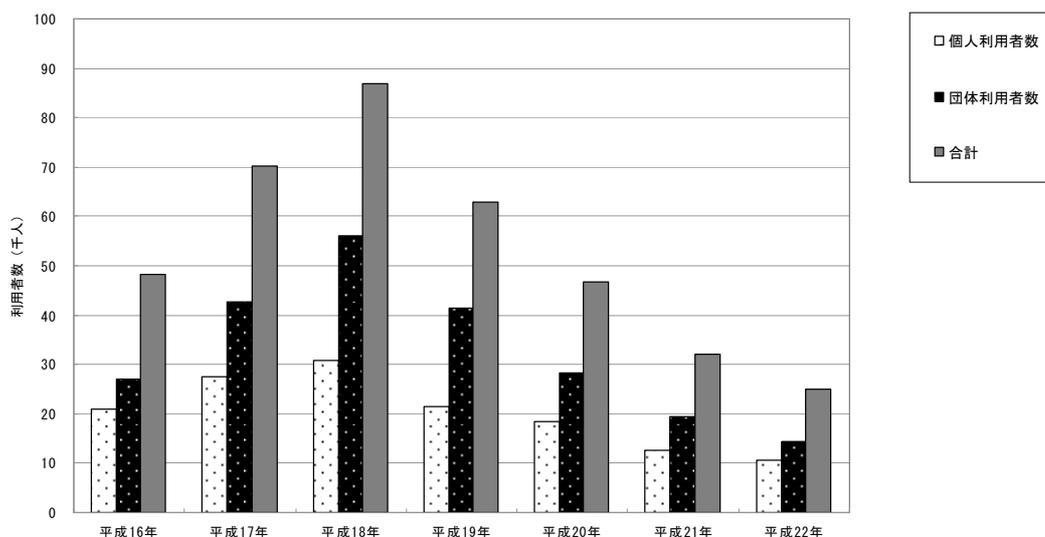
コメント：ほぼ前年並の利用となっている。

2) 知床自然センターダイナビジョン利用者数（団体・個人）

表：ダイナビジョン利用者数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考
平成16年	個人利用者数（人）	141	675	714	668	2,129	2,254	4,190	4,412	2,592	1,665	1,413	206	21,059	
	団体利用者数（人）	231	1,445	586	1,214	3,178	4,545	5,974	2,678	2,912	2,682	1,373	327	27,145	
	利用者数合計（人）	372	2,120	1,300	1,882	5,307	6,799	10,164	7,090	5,504	4,347	2,786	533	48,204	
平成17年	個人利用者数（人）	204	699	608	573	1,732	2,302	3,908	6,191	4,857	4,127	1,650	588	27,439	
	団体利用者数（人）	222	912	426	454	1,910	3,779	3,309	2,408	8,432	12,051	5,187	3,674	42,764	
	利用者数合計（人）	426	1,611	1,034	1,027	3,642	6,081	7,217	8,599	13,289	16,178	6,837	4,262	70,203	
平成18年	個人利用者数（人）	893	1,295	1,324	983	2,953	3,593	3,744	5,941	4,203	3,837	1,289	830	30,885	
	団体利用者数（人）	1,741	2,195	3,593	3,536	5,599	8,039	3,612	2,948	9,089	10,945	3,774	877	55,948	
	利用者数合計（人）	2,634	3,490	4,917	4,519	8,552	11,632	7,356	8,889	13,292	14,782	5,063	1,707	86,833	
平成19年	個人利用者数（人）	357	713	712	990	2,395	2,493	3,395	3,667	2,810	2,601	513	714	21,360	
	団体利用者数（人）	746	1,177	1,018	1,510	5,403	5,532	6,211	1,565	8,209	7,131	2,857	147	41,506	
	利用者数合計（人）	1,103	1,890	1,730	2,500	7,798	8,025	9,606	5,232	11,019	9,732	3,370	861	62,866	
平成20年	個人利用者数（人）	148	465	541	541	1,646	2,274	3,103	3,899	2,581	2,003	736	425	18,362	
	団体利用者数（人）	436	973	981	891	3,640	4,320	2,753	2,040	3,696	5,323	2,174	1,073	28,300	
	利用者数合計（人）	584	1,438	1,522	1,432	5,286	6,594	5,856	5,939	6,277	7,326	2,910	1,498	46,662	
平成21年	個人利用者数（人）	215	338	563	353	1,003	1,107	2,722	2,117	1,964	1,408	489	305	12,584	
	団体利用者数（人）	214	561	1,643	2,272	1,552	2,034	2,409	684	2,569	3,611	1,423	515	19,487	
	利用者数合計（人）	429	899	2,206	2,625	2,555	3,141	5,131	2,801	4,533	5,019	1,912	820	32,071	
平成22年	個人利用者数（人）	273	284	515	328	767	1,061	1,830	1,963	1,842	928	650	192	10,633	
	団体利用者数（人）	161	518	687	535	1,131	1,388	2,735	813	3,427	2,294	433	176	14,298	
	利用者数合計（人）	434	802	1,202	863	1,898	2,449	4,565	2,776	5,269	3,222	1,083	368	24,931	
合計前年比		101%	89%	54%	33%	74%	78%	89%	99%	116%	64%	57%	45%	78%	
合計世界遺産登録前比		117%	38%	92%	46%	36%	36%	45%	39%	96%	74%	39%	69%	52%	平成16年比
合計ピーク年比		16%	23%	24%	19%	22%	21%	62%	31%	40%	22%	21%	22%	29%	平成18年比

グラフ：ダイナビジョン利用者数年次変化



出典：（財）知床財団

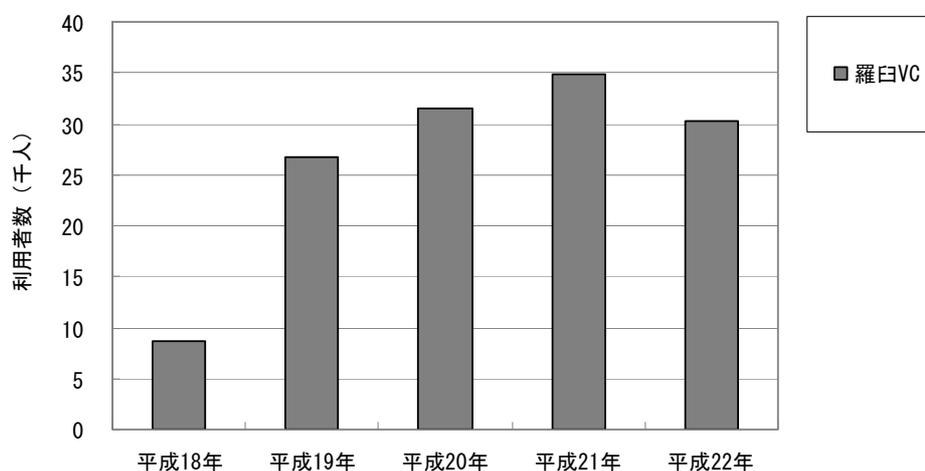
コメント：前年比32%減。世界遺産登録前比48%減。団体利用の減少が目立つ。

3) 羅臼ビジターセンター利用者数

表：羅臼ビジターセンター利用者数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考
平成18年	利用者数(人)	83	269	296	379	603	1,170	1,346	1,770	1,106	1,203	257	144	8,626	
平成19年	利用者数(人)	141	307	334	—	1,218	4,805	5,403	6,343	4,327	3,034	567	287	26,766	5月新築・開館
平成20年	利用者数(人)	227	548	572	724	2,205	2,797	5,431	9,579	5,028	3,690	357	275	31,433	
平成21年	利用者数(人)	173	744	1,000	836	4,256	3,735	5,983	8,405	6,451	2,544	514	183	34,824	
平成22年	利用者数(人)	170	565	140	679	3,076	2,897	5,841	8,747	5,103	2,297	415	250	30,180	
	前年比	98%	76%	14%	81%	72%	78%	98%	104%	79%	90%	81%	137%	87%	
	新築前比	205%	210%	47%	179%	510%	248%	434%	494%	461%	191%	161%	174%	350%	平成18年比

グラフ：羅臼ビジターセンター利用者数年次変化



出典：羅臼ビジターセンター

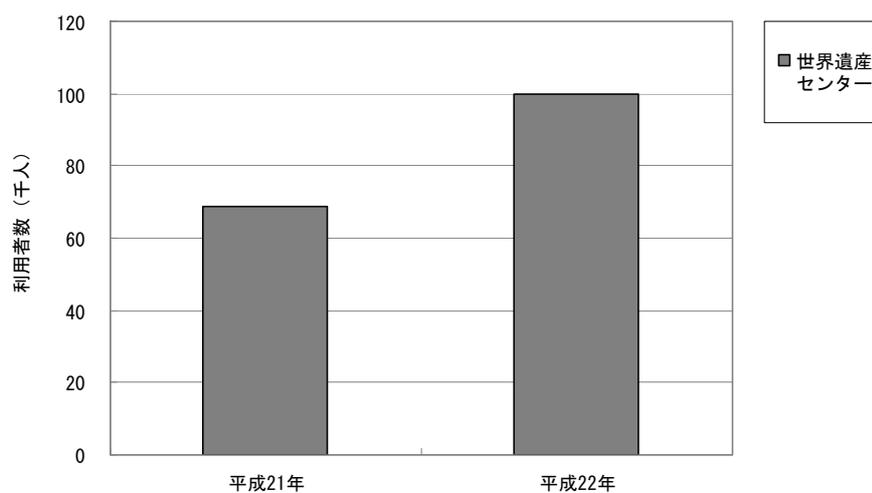
コメント：前年比 23%減。総数は1 昨年並みの利用者数。新築以後、増加傾向であったが、初めての減少となった。7、8月の利用は昨年と同等である。

4) 知床世界遺産センター利用者数

表：知床世界遺産センター利用者数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考
平成21年	利用者数（人）	—	—	—	2,237	9,622	7,231	11,273	14,767	12,950	6,602	2,605	1,407	68,694	4/19オープン
平成22年	利用者数（人）	2,506	2,518	3,323	3,864	9,504	10,103	17,854	22,759	15,306	8,426	2,746	1,111	100,020	
	前年比	—	—	—	173%	99%	140%	158%	154%	118%	128%	105%	79%		

グラフ：知床世界遺産センター利用者数年次変化



出典：知床世界遺産センター

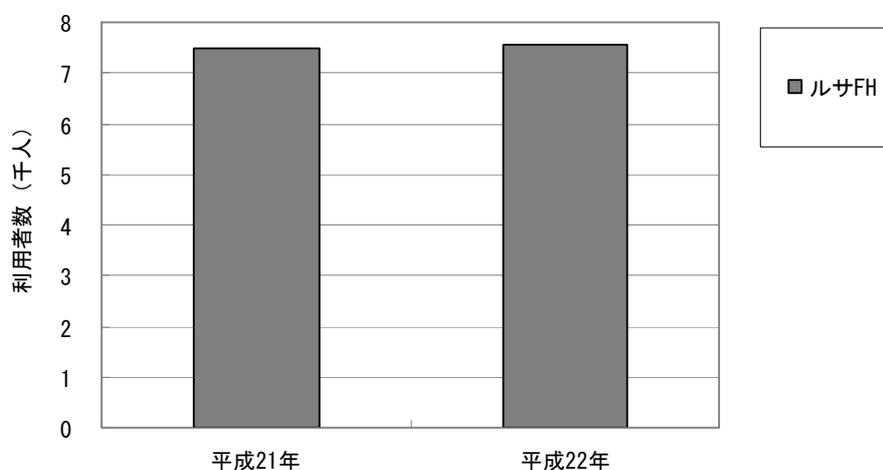
コメント：ほぼ全ての月にて利用者数の増加が見られた。

5) 知床世界遺産ルサフィールドハウス利用者数

表：知床世界遺産ルサフィールドハウス利用者数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考
平成21年	利用者数(人)	—	—	—	—	—	880	1,596	1,999	1,858	1,151	—	—	7,484	6月7日閉館 11月～1月閉館
平成22年	利用者数(人)	—	146	52	154	889	894	1,194	2,017	1,324	900	—	—	7,570	11月～1月閉館
	前年比	—	—	—	—	—	102%	75%	101%	71%	78%	—	—		

グラフ：知床世界遺産ルサフィールドハウス利用者数年次変化



出典：知床世界遺産ルサフィールドハウス

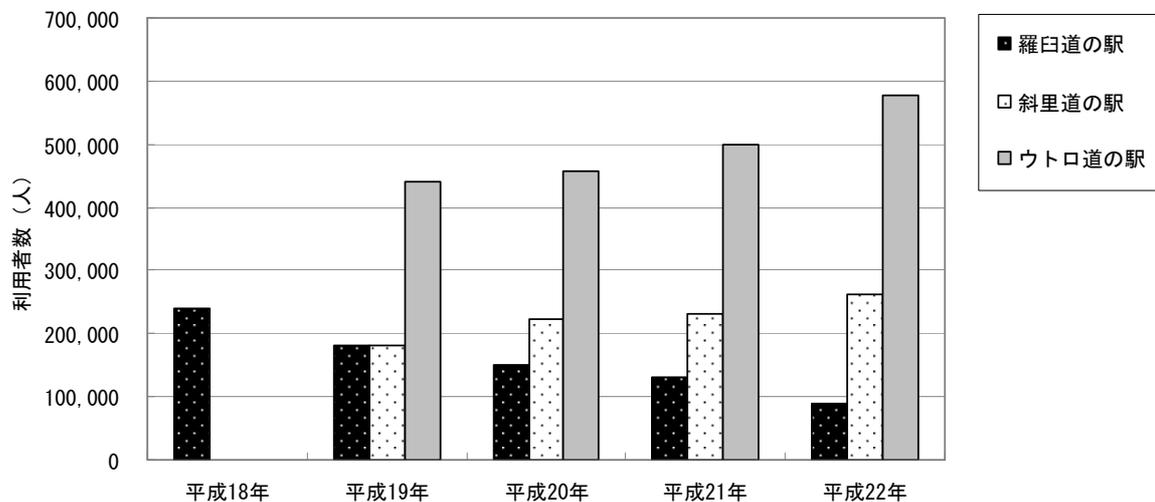
コメント：7月、9月、10月は前年比20～30%程度減少した。

6) 道の駅利用者数（道の駅うとろ・シリエトク、道の駅・しゃり、道の駅知床・らうす）

表：道の駅利用者数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考
平成18年	羅臼道の駅利用者数（人）	1,707	3,057	2,796	3,530	18,528	27,739	39,066	63,804	45,999	26,580	4,755	2,681	240,242	
平成19年	羅臼道の駅利用者数（人）	1,529	2,699	2,836	4,352	12,885	19,534	28,793	49,254	31,079	21,624	4,753	2,774	182,112	
	斜里道の駅利用者数（人）	-	-	-	3,800	17,162	18,211	33,553	44,597	26,645	18,202	10,915	8,332	181,417	4月25日開館
	ウトロ道の駅利用者数（人）	-	-	-	12,956	46,694	48,384	70,546	122,142	75,141	43,588	14,719	7,267	441,437	4月25日開館
平成20年	羅臼道の駅利用者数（人）	2,230	4,109	3,986	5,950	18,446	15,031	22,416	36,364	19,901	16,157	3,651	2,260	150,501	
	斜里道の駅利用者数（人）	7,934	10,051	12,015	16,222	20,417	17,553	35,633	40,630	24,496	17,392	10,649	9,570	222,562	
	ウトロ道の駅利用者数（人）	8,874	13,939	14,532	16,109	42,856	42,994	67,489	107,436	74,658	46,627	14,662	6,395	456,571	
平成21年	羅臼道の駅利用者数（人）	1,944	2,707	3,362	4,772	20,317	13,602	16,853	29,250	20,662	11,218	2,783	2,509	129,979	
	斜里道の駅利用者数（人）	5,806	7,632	7,137	12,934	24,469	19,323	35,809	44,661	31,315	18,581	14,256	10,558	232,481	
	ウトロ道の駅利用者数（人）	8,706	12,631	16,701	15,101	56,833	46,551	73,712	113,029	90,677	41,617	14,752	8,599	498,909	
平成22年	羅臼道の駅利用者数（人）	1,615	3,395	2,707	4,078	15,960	11,171	11,044	15,981	10,725	9,066	1,828	1,155	88,725	
	斜里道の駅利用者数（人）	8,705	11,131	12,587	12,407	25,244	22,550	43,164	49,396	29,129	21,574	12,978	12,227	261,092	
	ウトロ道の駅利用者数（人）	11,822	13,978	15,283	16,485	53,181	65,149	94,146	133,895	94,192	56,593	15,791	7,430	577,945	
前年比（羅臼道の駅）		83%	125%	81%	85%	79%	82%	66%	55%	52%	81%	66%	46%	68%	
前年比（斜里道の駅）		150%	146%	176%	96%	103%	117%	121%	111%	93%	116%	91%	116%	112%	
前年比（ウトロ道の駅）		136%	111%	92%	109%	94%	140%	128%	118%	104%	136%	107%	86%	116%	

グラフ：道の駅利用者数年次変化



出典：斜里町商工観光課、羅臼町水産商工観光課

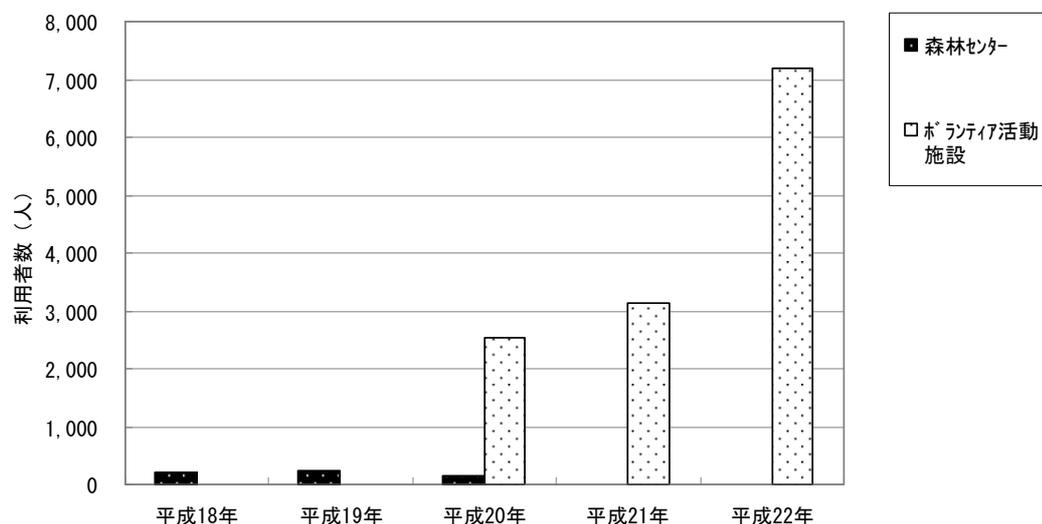
コメント：斜里、ウトロとも前年比約10%増。羅臼は32%減。

7) 森林センター・ボランティア活動施設利用者数

表：森林センター・ボランティア活動施設利用者数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考
平成18年	森林センター（人）	23	0	19	0	0	23	42	18	20	17	24	10	196	
平成19年	森林センター（人）	12	20	18	0	0	23	50	27	16	23	35	0	224	
平成20年	森林センター（人）	25	0	17	0	0	23	19	0	0	19	18	18	139	
	ボランティア活動施設（人）					181	237	811	758	445	112	7	0	2,551	5月新築・開館
平成21年	ボランティア活動施設（人）	0	21	12	112	126	354	641	1,061	471	201	94	55	3,148	1-3月は工事のためイベント利用者のみの利用
平成22年	ボランティア活動施設（人）	96	71	79	101	541	626	1,086	2,243	723	626	469	538	7,199	
前年比		—	338%	658%	90%	429%	177%	169%	211%	154%	311%	499%	978%	229%	

グラフ：森林センター・ボランティア活動施設利用者数年次変化



出典：林野庁北海道森林管理局 知床森林センター

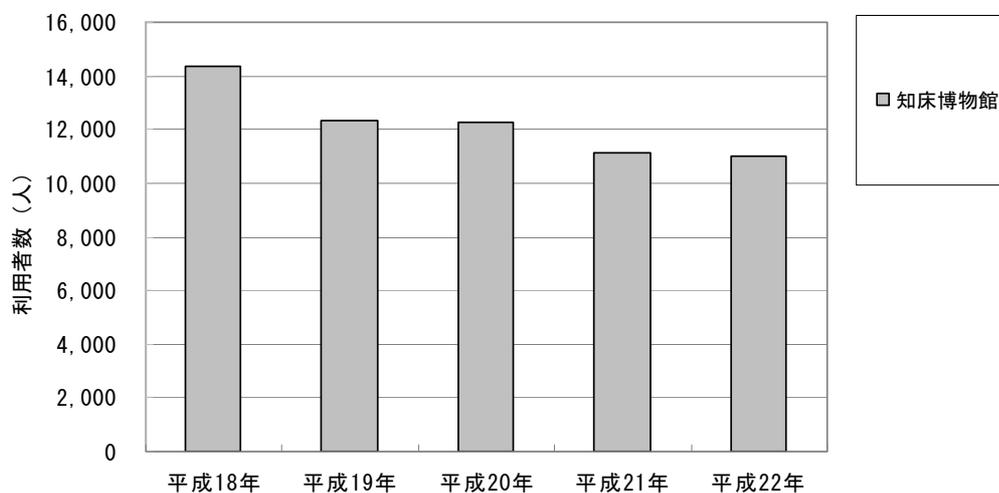
コメント：ボランティア活動施設は前年比 129%増。

8) 知床博物館利用者数

表：知床博物館利用者数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	備考
平成18年	知床博物館（人）	291	830	805	939	1,246	2,010	2,508	2,551	1,292	943	615	308	14,338	
平成19年	知床博物館（人）	355	565	678	1,166	943	1,017	2,129	1,940	1,128	1,110	898	387	12,316	
平成20年	知床博物館（人）	454	684	531	868	1,027	1,597	2,308	1,615	1,157	889	781	375	12,286	
平成21年	知床博物館（人）	323	707	537	889	770	1,097	2,315	1,241	1,356	947	619	298	11,099	
平成22年	知床博物館（人）	236	412	684	676	869	980	2,600	1,651	1,215	791	430	461	11,005	
前年比		73%	58%	127%	76%	113%	89%	112%	133%	90%	84%	69%	155%	99%	

グラフ：知床博物館利用者数年次変化



出典：斜里町立知床博物館

コメント：ほぼ前年並。

Ⅲ. 知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議の開催

1. 知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議の位置づけと構成

原始性の高い自然を誇る知床国立公園においては、自然や野生動物とのふれあいを求めるニーズの増大や、利用の多様化による課題の発生を受け、国立公園の適正な利用と保護を図るための検討の場として、平成 13 年度から「知床国立公園利用適正化検討会議」が設置され、検討が行われてきた。検討会議は学識経験者、地元関係団体、関係行政機関で構成され、平成 13 年度から延べ 9 年に渡り活動を継続し、その間、先端部地区・中央部地区の各利用適正化計画、利用の心得等の成果を挙げ、平成 21 年度でその活動を終えた。

平成 22 年度からは、国立公園の枠から、知床世界自然遺産地域としての適正な利用を検討するために、「知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議」が新たに設置された。本検討会議は、専門家で構成される「知床世界自然遺産地域科学委員会適正利用・エコツーリズムワーキンググループ」、地元関係団体で構成される「知床世界自然遺産地域連絡会議の適正利用・エコツーリズム部会」の合同開催によるものであり、従来の利用適正化検討会議が有していた専門家、地元関係者、関係機関が一同に介した協議・合意形成の場となっている。

本業務においては、この「知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議」開催事務を行った。

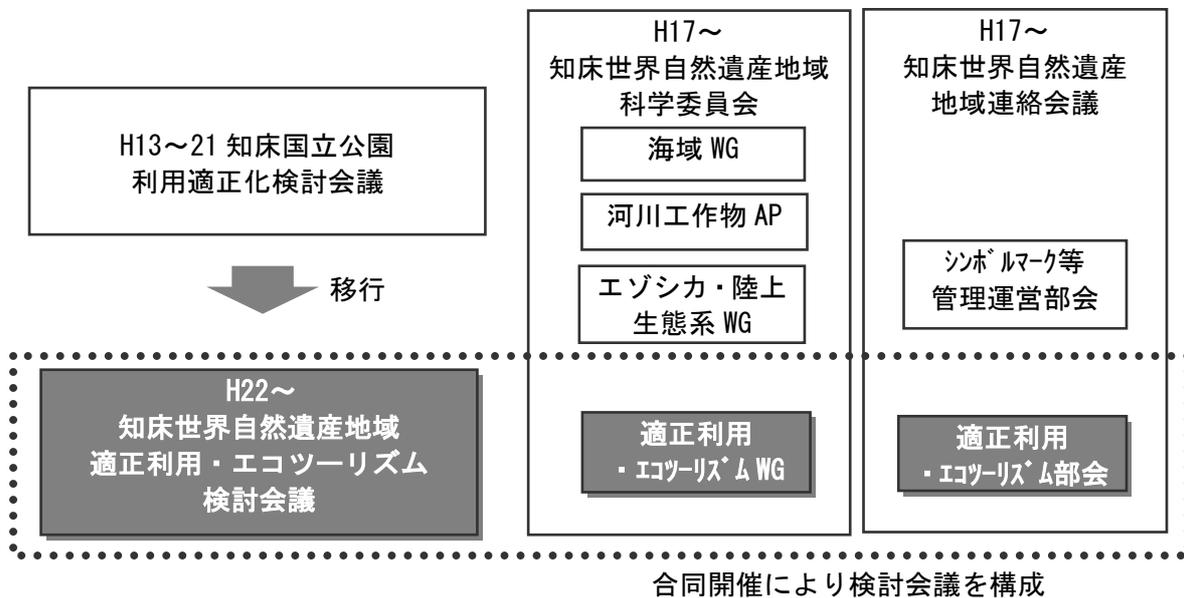


図 検討会議の構成

表 検討会議の構成員

適正利用・エコツーリズムWG委員（敬省略）	
敷田麻実	北海道大学観光学高等研究センター【座長】
愛甲哲也	北海道大学大学院農学研究院
石川幸男	専修大学北海道短期大学
小林昭裕	専修大学北海道短期大学
庄子康	北海道大学大学院農学研究院
中川元	斜里町立知床博物館
間野勉	北海道立総合研究機構環境・地質研究本部環境科学研究センター
適正利用・エコツーリズム部会 構成員	
地元関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・ウトロ地域協議会 ・ウトロ漁業協同組合 ・知床斜里町観光協会 ・知床羅臼町観光協会 ・羅臼町・知床世界自然遺産協議会 ・羅臼漁業協同組合 ・知床ガイド協議会 ・（財）知床財団 ・知床エコツーリズム推進協議会 ・知床自然保護協会 ・斜里山岳会 ・羅臼山岳会 ・羅臼遊漁釣り部会 ・斜里第一漁業協同組合 ・斜里町小型観光船協議会 ・知床羅臼観光船協議会 ・（財）自然公園財団 知床支部
関係行政機関	<ul style="list-style-type: none"> ・釧路開発建設部 ・網走開発建設部 ・北見運輸支局 ・釧路運輸支局 ・網走海上保安署 ・羅臼海上保安署 ・北海道警察釧路方面本部 ・北海道警察北見方面本部 ・斜里町 ・羅臼町

2. 会合の結果報告と次年度以降の展望

(1) 知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議

1) 開催の経緯

知床世界自然遺産地域としての適正な利用を検討するために、環境省釧路自然環境事務所、林野庁北海道森林管理局、北海道の3行政機関を事務局とし、地元関係団体、関係行政機関、7名の学識経験者による「知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議」が平成22年6月22日に第1回、11月8日に第2回、平成23年3月10日に第3回が開催された。概要は下記のとおりである。

●第1回

平成22年6月22日（火）場所：斜里町ウトロ（知床第一ホテル）

（平成22年6月21日（月）には、知床五湖、羅臼湖等の現地視察を実施した。）

主な議事：

- ・ 知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議の設置について
- ・ 知床半島における保護と利用に関する課題について
- ・ 既存協議会・検討会等における検討状況について
- ・ 適正利用・エコツーリズム検討会議の進め方について

主な合意事項：

○検討体制

- ・ 適正利用・エコツーリズム検討会議の推進体制について合意。
- ・ 既存の協議会や個別の会合については、1年を目処に本検討会議を中心的な議論の場にしていく。
- ・ エコツーリズム戦略の策定及び個別のテーマについては、個別の会合を開き、（検討会メンバー以外も参加）、その経過・結果についてはこの場で報告・共有・合意を図っていく。
- ・ 検討会、個別の会合について、科学委員のメンバーが積極的な支援・参加をする。

○検討内容

- ・ 全体テーマとしてエコツーリズム戦略を策定していく。
- ・ 個別のテーマは優先課題が整理できた段階から順次取り上げて解決を図っていく。

○スケジュール

- ・ エコツーリズム戦略は骨子を1年目、2年目に内容、3年目に実施もしくは完成というスケジュールを目標とする。
- ・ 個別のテーマについては、準備でき次第、地元の協力を得ながらその都度解決のステージに移行していく。



写真 第1回検討会議



写真 現地視察（知床五湖）

●第2回

平成22年11月8日（月）場所：斜里町（斜里町産業会館）

主な議事：

- ・エコツーリズム戦略関係
- ・個別会合における検討状況報告
- ・意見交換

主な合意事項：

○戦略の基本

3つの基本的な要素

- ・世界自然遺産地域の自然価値の保護
- ・観光客に対する自然に基づく良質な体験の提供
- ・地域経済の発展

○戦略の対象

- ・陸域の利用に加えて、海域の観光活動も対象とする。（産業利用を除く。）
- ・エコツアーだけでなく、マストツアーも対象として含む。
- ・遺産地域で行われる活動及び遺産地域外の遺産地域に影響を与える活動を対象とする。

○既存計画との関係

- ・エコツーリズム推進計画、利用適正化基本計画等の関連計画は、順次戦略の体系に統合する。
- ・個別地区の計画や協議会等も、戦略や本検討会議と連携・統合を図る。

○策定のプロセス

- ・戦略は、起草部会等を開催し検討を行う。その後パブリックコメント等を経て、平成23年度の第1回検討会議時に骨子として承認を行う。



写真 第2回検討会議

●第3回

平成23年3月10日（木）場所：羅臼町（羅臼町公民館）

主な議事：

- ・エコツーリズム戦略について
- ・モニタリング調査について
- ・個別会合における検討状況について

主な合意事項：

○戦略の名称

- ・「知床エコツーリズム戦略」とする。

○戦略骨子

- ・骨子案について合意。

○モニタリング調査

- ・モニタリング方針素案について意見交換を行い、次回に案を示す。

○スケジュール

- ・当初よりも半年予定をはやめ、戦略の策定を進める。次年度当初に肉付けをした形で戦略案を示す。
- ・モニタリング調査については、案として次回以降に示す。



写真 第3回検討会議

(2) 参考：エコツーリズム戦略起草部会

第2回検討会議での合意を踏まえ、エコツーリズム戦略の素案を検討するために、環境省釧路自然環境事務所、林野庁北海道森林管理局、北海道の3行政機関を事務局とし、検討会議構成員の有志による「エコツーリズム戦略起草部会」が、平成22年12月17日に第1回、平成23年2月9日に第2回の計2回開催された。検討の概要は下記のとおりである。なお、第1回の起草部会開催後に、その意見の整理を行うため、有志により計2回の起草作業が実施された。(平成23年1月18日ウトロ開催、平成23年1月20日羅臼開催)

●第1回

平成22年12月17日(金) 場所：斜里町(斜里町産業会館)

主な議事：

- ・第2回利用適正・エコツーリズム検討会議の合意事項について
 - ・エコツーリズム戦略骨子(案)について
- ※2班に分かれ、ワークショップ形式にて、骨子のアイデア出しを実施。
- ※上記検討結果の整理のため、平成23年1月18日ウトロ、平成23年1月20日羅臼にて、起草作業を実施。

主な協議事項：

○戦略の名称

- ・エコツーリズム戦略の名称を「知床適正利用・エコツーリズム戦略」に変更。
(この後開催の第3回検討会議で「知床エコツーリズム戦略」に変更となる。)

○戦略の位置づけ

- ・戦略は変わらないもの。戦術は変えていくもの。
- ・民主導で実施するべき。

○戦略の内容

- ・知床のワイズユース、価値を記述。
- ・利用の計画はブロックやアクティビティ単位で行う。

○戦略のしくみ

- ・地元からのボトムアップ型のしくみをつくる。
- ・情報を共有・還元するしくみをつくる。
- ・地元優先。
- ・ルールづくり、試行、モニタリングの一連の計画をまとめ、検討会議で承認するしくみ。



写真 第1回起草部会

●第2回

平成23年2月9日（水）場所：標津町（標津町生涯学習センターあすばる）

主な議事：

- ・知床適正利用・エコツーリズム戦略骨子（案）の作成について

主な協議事項：（戦略骨子素案に関して）

○骨子の構成

- ・エコツーリズム、エコツアーの解説が必要。
- ・課題よりも基本的な考え方を先に示す。
- ・共通の将来目標を示す。
- ・判断の基準となる共通の価値観が必要。（基本理念）

○骨子の基本方針

- ・両町の情報発信のバランスを同じにすることが必要。

○骨子の目標

- ・課題解決でなく、崇高な目標とする。
- ・自然を守りながら、経済が回ることを目標。
- ・将来目標は具体的に、達成状況が評価できるもの。
- ・自然保護と利用の割合の線引きが必要。

○具体的方策

- ・利用の提案／検証型
- ・ゾーニングの実施
- ・守るべきルールの設定（自己責任等）

○体制

- ・問題提起し、議論出来る場が必要。
- ・巡視体制が不足。
- ・会議だけでなく、利用者アンケートなど実施できることからやる。
- ・検討会は監視の場。

○その他意見

- ・町民がわかりやすい、シンプルなものに。
- ・担保となる法的規制が必要。
- ・グレーゾーンの問題について検証が必要。



写真 第2回起草部会

(3) 参考：個別会合

1) 羅臼湖会合

開催状況：

平成22年11月17日、平成23年3月1日（計2回）

主な協議事項：

- ・羅臼湖地域の価値として、①貴重な湿原群であること、②知床の自然やその大切さを学べる利用地域であること、③静寂な雰囲気の中で利用できること、の3点であることを確認した。
- ・羅臼湖に関する基本原則として、①歩道利用等が羅臼湖地域の価値を損なわないようにすること、②質の高い利用を実現すること、③歩道施設の規模は最小限とすること、④羅臼湖に関する取り組みは関係者の連携協力のもと行うこと、の4点について合意した。
- ・歩道施設の整備水準について、軽登山程度の装備を有した利用者を想定し、植生保全の観点から必要最小限とすることとした。

- ・羅臼湖の利用ルールを作成し、利用者に周知を図ることとした。
- ・歩道が湿原植生に影響を及ぼしている箇所については植生保全のための歩道付替を行うこととした。付替ルート検討にあたっての基本的な考え方（①貴重な植生に影響を及ぼさないルートにする、②羅臼湖地域の魅力を伝えられるルートにする、③木道等が少なくすむルートにする、④関係者の十分な協議により検討を進める）や検討手順について合意した。

2) 知床国立公園ウトロ海域における海鳥の保護と持続可能な海域利用検討会

開催状況：

平成 22 年 7 月 26 日 平成 22 年 11 月 30 日（計 2 回）

主な協議事項：

- ・ウトロ海域を利用する全ての関係者（各事業者、利用者）と海鳥や自然環境にとって好ましい状態の創出と継続を目的とする（Win-Win-Win…の関係）。
- ・行政側が一方的に規制や誘導を行うのではなく、規制を作らずに海鳥保護と海域利用がうまく回って行く仕組みを目指す。
- ・行政機関、観光船事業者、シーカヤックガイド、漁業者、観光関係者など検討会構成員の全員が当事者という考えのもと協議を進めていく。
- ・検討会は、現状認識や、調査をどのように進めるかという事を相談する場である。
- ・関係各者が色々な対策をとっていることを評価しながら、今後同様なことを実施するときモニタリング調査を行いながら進める。
- ・利用者動向調査の結果は海鳥の保護の観点だけでなく、利用のマーケティングとして有効な調査と評価された。
- ・調査やパンフレットの作成など関係者の協力を得ながら進めていく。
- ・ミニ出前講座等を企画し、より幅の広い関係者が海鳥を資源として認識し、保護と利用が両立できるよう地域のボトムアップを図っていく。

3) 知床五湖の利用のあり方協議会

開催状況：

平成 22 年 4 月 26 日、平成 22 年 6 月 8 日、平成 22 年 7 月 9 日、平成 22 年 8 月 23 日、平成 22 年 9 月 16 日、平成 22 年 9 月 28 日、平成 22 年 10 月 29 日、平成 22 年 12 月 22 日、平成 23 年 3 月 28 日（計 9 回）

主な協議事項：

- ・立入認定手続きと手数料について
- ・知床五湖レクチャー施設整備について
- ・車両渋滞対策について
- ・キャッチフレーズについて
- ・知床五湖広報計画について
- ・引率者審査部会の設置について
- ・指定認定機関について

4) ヒグマ保護管理方針検討会議

開催状況：

平成 22 年 6 月 20 日、平成 22 年 11 月 9 日、平成 23 年 1 月 24 日（計 3 回）

主な協議事項：

- ・ヒグマ保護管理に関わる検討課題
- ・知床半島ヒグマ保護管理方針（案）の作成について
- ・モニタリング調査について

IV. 羅臼湖の利用のあり方に関する検討

1. 羅臼湖の利用のあり方に関する検討の構成

羅臼湖地域は、静寂な雰囲気の中で質の高い自然体験が出来る場として、知床国立公園において重要な地域であり、知床半島中央部地区利用適正化基本計画では「湿原植生の保全を最優先に、質の高いトレッキング利用による自然体験を提供する場」として位置づけられている。

世界自然遺産登録による一時的な利用者の増加により、歩道拡幅による植生荒廃や路上駐車が発生等、自然環境や利用の質への影響が懸念される状態であったが、近年の利用者数は年間 3,000 人から 4,000 人前後に落ち着く傾向となっている

しかしながら、本地域へのアクセス方法が限られ、利用者に負担を強いていることや、歩道施設の荒廃が進んでいる等、羅臼湖の適正な利用を進めるための課題は多く、羅臼湖の適正な利用を進めるための対策が望まれる状況にある。

これらの背景を踏まえ、本業務では、羅臼湖の利用実態と利用者の意識を把握することを目的とし、カウンターデータ、入林簿、ガイド事業者へのアンケート等の情報を元にした「利用実態調査」及び、利用者へのアンケートによる「利用意向調査」を実施した。

なお、今年度別途業務において、羅臼湖歩道の植生保全・歩道整備のあり方の検討が行われ、また、羅臼湖のあり方を検討する場として、羅臼湖に関係する地元団体、関係機関から構成される「羅臼湖個別会合」が計 2 回開催され、羅臼湖の利用のあり方の検討が進められた。

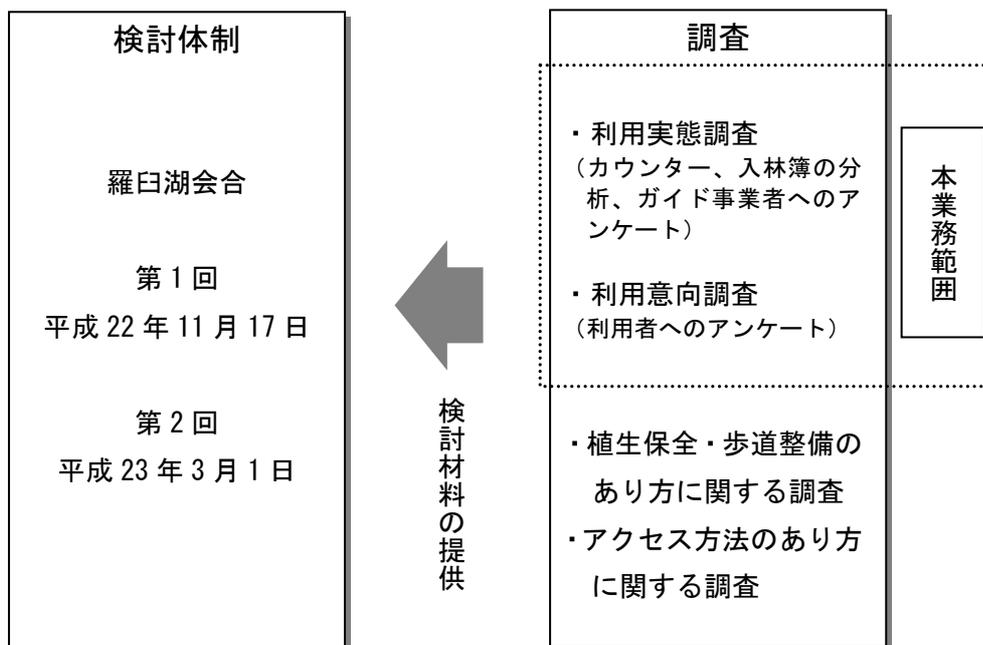


図 羅臼湖地域に関する今年度の検討状況

2. 調査概要

(1) カウンター・入林簿解析

1) 調査状況

環境省が設置する羅臼湖の平成 16 年から 22 年までのカウンターデータ、及び北海道森林管理局が管理する羅臼湖の平成 17 年から 22 年までの入林簿を元に、下記の項目について解析を行った。

カウンターデータについては、主に利用人数の状況と、集中状況を把握することに留意し、解析を行った。

入林簿については、主に利用属性（個人 or グループ等）、アクセス方法、ガイドの利用状況を把握することに留意し、解析を行った。

○カウンターデータからの解析事項

- ・ 年間利用者数の推移（知床五湖の推移との比較）
- ・ 月別利用者数の推移
- ・ 日当たりの利用者数の推移
- ・ 入山、下山の時間帯の傾向
- ・ 任意日の入山状況（利用者が多い日の状況）

○入林簿からの解析事項

- ・ 入林簿の記入率
- ・ 利用人数の構成
- ・ 滞在時間
- ・ アクセス方法
- ・ 利用者の構成（団体・個人等の属性）
- ・ ガイド引率利用の状況

2) 調査結果

○利用の状況

- ・ 平成 17 年をピークに利用は減少に転じ、3,000 人～4,000 人の年間利用者数に落ち着いている。（平成 17 年は約 7,400 人）
- ・ 入山（午前中）、下山（午後の早い時間）の時間帯に集中する傾向にある。
- ・ 滞在時間は平均で 2 時間 40 分～3 時間前後となり、経年変化はない。

○利用者層の傾向

- ・ 平成 17 年、18 年時点に比較し、利用の集中の原因の一つである、多人数の団体利用団体は減少し、近年では 10 人以下のグループがほとんどを占める傾向である。

○アクセスの状況

- ・ 従来の自動車にかわり、バス、送迎、峠から徒歩という利用が大幅に増加してきている。（バス、送迎、峠から徒歩利用入林簿の組数割合：平成 17 年 40%→平成 22 年 80%）

○ガイド利用の状況

- ・多くの利用者がガイドツアーを利用しており、ガイド引率は羅臼湖の主要な利用形態の一つとなっている。

(ガイド引率の利用者数割合 入林簿：平成 17 年 55%→平成 22 年 70%)

- ・従来の旅行業者主体のツアーから、地元ガイド業者を中心としたガイドツアー利用が多くを占めるようになってきている。

(地元ガイド引率の利用者数割合 入林簿：平成 17 年 20%→平成 22 年 60%)

(2) ガイド聞き取り調査

1) 調査状況

羅臼湖のガイドツアーを実施する斜里町、羅臼町を拠点としたガイド事業者に対し、羅臼湖利用の状況に関する情報を把握するため、アンケート調査を実施した。

実施にあたっては、知床ガイド協議会に協力を得て、協議会に所属するガイド事業者計 9 社に配布し、返送は 3 通、33.3%の回収率となった。

なお、返信のあった 3 通のうち、1 社は羅臼湖でガイドを実施しておらず、有効回答は 2 通となった。

2) 調査結果

合計 2 社の回答に限られたことから、データとしては十分ではないため、共通の傾向が得られたものを下記に整理する。

○事業拠点

- ・ウトロ地区

○ガイドツアーの人数

- ・1～10 人の範囲の回答であった。

○滞在時間

- ・3 時間半～4 時間の回答であった。

○ツアー出発時間

- ・午前中の出発との回答であった。

○利用者層

- ・ファミリーや海外利用者の変動は特にないとの回答であった。
- ・登山初心者の増加があるとの回答であった。

○利用者が感じる魅力、ツアーの選定理由

- ・秘境らしさ、静寂性、神秘性が魅力として挙げられた。
- ・アクセスしづらいこと、悪路であること、クマが出没するなどの事項がガイドツアー利用につながるとの意見であった。

(3) 利用者アンケート調査

1) 調査状況

羅臼湖の利用のあり方を検討する基礎資料として、羅臼湖を利用する利用者の属性や訪問動機、訪問の感想等を把握するために行った。

調査は北海道大学准教授庄子康研究室と北電総合設計株式会社の共同で実施し、7 月 17 日から 19 日の計 3 日間実施した。なお、8 月 6～8 日、28～30 日について、北海道大学において自主的に追加調査を実施し、調査期間は最終的に 9 日間となった。

調査方法は調査員が羅臼湖歩道入口にて、羅臼湖利用者へアンケートの入った封筒を配布し、後日、郵送してもらう形式とした。

なお、調査時に路上駐車台数についても、目視により把握を行った。

9日間の調査では203人(ガイドを含む)が訪れ、そのうち140人に調査用紙を配布した。返送があったのは140人中64人であり、回収率は47.1%であった。

路上駐車については、最大7台程度を確認した。

2) 調査結果

○利用の状況

- ・初めての利用者が多く、リピーターは少ない傾向がみられた。

○利用者層の傾向

- ・ウトロ方面を訪問、また宿泊した利用者が多い傾向がみられた。
- ・滞在日程にゆとりを持った利用者が多い傾向がみられた。
- ・年齢層は若年から高齢層まで幅広い傾向がみられた。
- ・道外客が多い傾向がみられた。
- ・登山経験のある利用が多くみられたが、はじめてという利用者も存在した。

○アクセスの状況

- ・ガイドツアー利用者はほぼ送迎利用であり、個人利用者の中には路上駐車を行っている状況が確認された。
- ・バスの運行回数の少なさの指摘が多かった。
- ・バスの運行や駐車に関する呼びかけに関し、知らない利用者が存在した。(約30%)

○ガイド利用の状況

- ・ガイドツアーの利用が多い傾向がみられた。(約65%)

○環境に対する評価

- ・羅臼湖の静寂な自然環境について、高く評価している傾向がみられた。

○施設に対する評価

- ・歩道等の施設の現況評価、施設整備の必要性については、利用者の意向は分かれた。

(4) 参考：業務外の調査等

1) 羅臼湖線歩道植生保全に向けた検討調査業務

① 調査状況

羅臼湖の歩道整備やアクセス方法を検討するため、羅臼湖線歩道における諸条件の整理や現地調査を行った。

現地調査は、羅臼湖線歩道全線において、有識者の助言を得ながら実施し、植生保全上の課題を抽出した。

また調査の結果を踏まえ、植生保全対策の優先度を判定し、植生保全・復元手法の検討と、付け替えルートの検討を行った。

② 調査結果

調査の結果、現歩道の影響と思われる植生保全上の問題箇所が9地点確認されたため、それぞれの地点の保全対策の優先度を3段階に区分し、植生保全対策を立案した。また、

現地踏査結果を踏まえ、付け替えの候補となるルート案を複数箇所検討した。

2) 知床全体アンケート

①調査状況

北海道大学庄子康准教授が平成22年7月から9月にかけて、知床全体の利用に関してのアンケート調査を実施した。調査は知床世界遺産センター、知床自然センター、羅臼ビジターセンターの三か所でそれぞれ4日、5日、3日間行い、650人から旅程をその場で聴取するとともに、アンケート票を650通配布し、293通を回収した（回収率45.1%）。このうち羅臼湖を訪れた利用者は650人中24人おり、羅臼湖を訪れた利用者でアンケート票の返送があったのは293人中16人であった。

②調査結果

羅臼湖利用者と知床五湖利用者との差異は、下記の点で見られた。

○訪問動機

- ・「自然の中で体験や活動を行うことができる」という項目で羅臼湖の利用者が知床五湖よりも高く評価を行っていた。

○施設整備の意向

- ・「知床ではもっと観光施設を整備したほうがよい」という設問に対し、全くそう思わないという利用者の意向が高い傾向が見られた。

○訪問日程

- ・知床五湖は1泊2日が半数を占めたことに対し、羅臼湖は2泊3日が半数を占め、滞在期間が長い傾向が見られた。

3) 羅臼湖会合

①開催状況

平成22年11月17日、平成23年3月1日（計2回）

②協議事項

- ・羅臼湖地域の価値として、①貴重な湿原群であること、②知床の自然やその大切さを学べる利用地域であること、③静寂な雰囲気の中かで利用できること、の3点であることを確認した。
- ・羅臼湖に関する基本原則として、①歩道利用等が羅臼湖地域の価値を損なわないようにすること、②質の高い利用を実現すること、③歩道施設の規模は最小限とすること、④羅臼湖に関する取り組みは関係者の連携協力のもと行うこと、の4点について合意した。
- ・歩道施設の整備水準について、軽登山程度の装備を有した利用者を想定し、植生保全の観点から必要最小限とすることとした。
- ・羅臼湖の利用ルールを作成し、利用者に周知を図ることとした。
- ・歩道が湿原植生に影響を及ぼしている箇所については植生保全のための歩道付替を行うこととした。付替ルート検討にあたっての基本的な考え方（①貴重な植生に影響を及ぼさないルートにする、②羅臼湖地域の魅力を伝えられるルートにする、③木道等が少なくすむルートにする、④関係者の十分な協議により検討を進める）や検討手順について合意した。

3. 考察

(1) 調査結果の整理

1) 利用状況

- ・平成 17 年をピークに利用者数は減少し、また、利用の集中の原因の一つである、多人数の団体利用も減少しており、利用の集中によって羅臼湖の荒廃や利用の質の低下が進む可能性は低くなっている。

2) 利用者層の傾向

- ・ガイド引率利用は増加傾向にあるが、個人利用者も多く存在しており、それぞれの利用者を尊重する必要がある。
- ・羅臼湖を訪れる利用者は、自然環境に対する関心が高く、滞在日数もゆとりをもっている傾向があり、利用ニーズに対応した環境づくりが望まれる。

3) ガイド利用の状況

- ・ガイド引率は羅臼湖の主要な利用形態の一つとなっており、従来の旅行業者主体のツアーから、ウトロ地区のガイド業者を中心とした地元のガイドツアー利用が多くを占めるようになってきている。
- ・ガイド引率利用の増加により、団体人数の少人数化や、送迎利用の増加等、適正な利用が促進されている。

4) 自然体験の質の評価

- ・静寂性が魅力とされ、また現状の自然環境が評価されており、質の高いトレッキング利用による自然体験が提供されている。

5) アクセスの状況

- ・従来の自動車にかわり、バス、送迎、峠から徒歩という利用が 8 割を占めており、適正なアクセス方法に変化してきている。
- ・路上駐車は発生しているが、一時期に比べれば沈静化してきていると考えられる。
- ・ガイドツアーの送迎が利用者に高く評価されており、送迎利用への環境整備が望まれる。
- ・公共交通機関に対する評価や利用意向は低く、バスについては、利便性が低評価となっており、利用状況に応じ、改善可能か検討が望まれる。
- ・個人利用者の交通手段が限られ、峠からの徒歩利用も多く見られることから、安全なアクセスの確保が望まれる。

6) 施設整備

- ・施設の現況評価および施設整備に対する利用者の意向は二分されたが、知床五湖のような大規模な施設整備を望まず、静寂な環境を望む傾向が見られたことから、羅臼湖の自然を尊重した施設整備が望まれる。
- ・現状の歩道については、老朽化が進み、また植生への影響も確認されたことから、地元との協議により、環境保全、自然体験の質に配慮した適正なルート、施設整備の検討が望まれる。

(2) 羅臼湖の利用のあり方について

1) 利用のあり方の方向性

調査の結果を踏まえ、羅臼湖の利用のあり方について、下記に整理する。

①利用規模

- ・現在の利用において過度な利用の集中は見られず、落ち着いている状況であることから、当面現状の利用者数を維持していくことが望まれる。
- ・利用の時間帯が集中している傾向があることから、利用者の大幅な増加や多人数の団体利用が発生した場合、歩道周辺の荒廃や、利用の質の低下を招く恐れがある。したがって、利用の動向を十分に注視する必要がある、増加の傾向が確認された場合は、利用の均質化等の検討を図る必要がある。

②自然体験の質

- ・羅臼湖の利用は静寂な環境の中でのトレッキング利用が評価されており、引き続き環境の維持を行っていく必要がある。
- ・現状の歩道周辺については、歩道整備が要因と考えられる植生の荒廃等も確認され、残置した場合、将来的には羅臼湖の自然環境の大幅な変化につながる可能性がある。一方で、現歩道は各沼を巡り、展望等の魅力がある探勝ルートとなっており、これまで地元にも親しまれてきたという経緯もある。
したがって、現歩道の魅力や経緯を十分に把握し、羅臼湖における自然体験の内容や必要とする環境を抽出した上で、自然環境への負荷の少ないルートの検討を行うことが必要である。
- ・利用者の極端な増加や利用の集中の発生は、羅臼湖の静寂な環境を阻害し、本来持つ魅力を損ねる可能性があることから、利用と自然環境のバランスを維持することが必要である。

③利用者層

- ・幅広い年齢層、また登山経験者から未経験者まで、幅広い利用者層が存在しており、比較的気軽に、静寂な環境が楽しめる場として魅力があると考えられる。
- ・ガイド引率利用が増加しているが、個人利用者も多いため、それぞれの利用形態に応じた利用環境整備を行う必要がある。

④アクセスの対応

- ・ガイドツアー利用に関しては、送迎による利用が定着しており、自動車の路上駐車は軽減につながっている。
ただし、現状では送迎に対応した乗降場が確保されていないことから、安全な乗降場の確保が必要である。
- ・個人利用者については、自動車利用による路上駐車は減少傾向にあり、峠からの徒歩利用等に移行しているものと推測される。
ただし路上駐車は発生している状況であり、引き続き代替のアクセス方法の普及、改良に努める必要がある。
また峠からの徒歩利用に関しては、危険度が高く推奨されていないが、個人利用者にとって、アクセス手段が限られているため、より安全性の高いアクセス方法について検討が必要である。
- ・交通手段等の状況に関して、周知が未だ周知されていない状況も確認されたことから、効果的な周知方法を検討する必要がある。

⑤歩道整備

- ・利用者の意向からは歩道整備の必要性は抽出できなかったが、明らかに老朽化、破損が発生しており、安全確保上、早急な整備が必要である。
- ・利用者は大規模な施設整備を望まず、また地元からは維持管理の可能な施設整備が指摘されている。したがって、現状の歩道破損要因を十分踏まえた上で、最小限の施設整備で対応が可能なルートの設定や、維持管理のしやすい歩道構造の検討が必要である。

⑥その他施設の整備

- ・比較的気軽に知床らしい静寂な自然環境が体験出来る場として認知されているが、羅臼湖における滞在時間は3~4時間と長く、アクセスや連絡手段も限られている。したがって、利用に際してはトイレの問題や非常時の連絡手法等の課題を抱えている。これらの課題に関しては、施設整備の対応検討のみでなく、そのシステムのバックアップ体制も併せて検討を行い、実現の可能性を検討する必要がある。

2) 今後の課題

羅臼湖の利用のあり方の検討にあたっては、今後下記のような取り組みが求められる。

○安全なアクセス手段の確保検討

- ・ガイドツアーのアクセスの主体となっている、送迎利用が安全に実施できるよう、一時停車帯の設置検討が求められる。
- ・個人利用者のアクセス手段が限られていることから、個人利用者に対応した安全な交通手段の検討が求められる。(峠からの徒歩利用、路線バス利用の可能性等)
- ・ルート付け替えにより、新たな入り口が発生する場合は、道路管理者、警察、バス会社等の関係機関と、地元関係者との協議により検討を行う必要がある。

○自然環境保全と自然体験の質を確保したルートの検討

- ・羅臼湖の脆弱な湿地環境の保全と、羅臼湖ならではの自然体験の提供が可能な、新たなルートの検討を行うことが求められる。検討にあたっては、地元との連携を十分にはかり、現地の実態に則した検討が必要である。

○耐久性、維持管理に配慮した施設検討

- ・歩道等の整備にあたっては、現施設の老朽化の原因を十分に把握し、耐久性や実際の維持管理体制にあわせた施設の検討が必要である。
- ・特にトイレ等の維持管理が重要となる施設については、維持管理体制もあわせた検討が必要である。

○維持管理体制の検討

- ・各施設の導入にあたっては、維持管理体制もあわせた検討が必要である。

○利用の分散への取り組み

- ・利用の集中の発生を回避するため、午後への利用を促進する方法等、利用の分散の可能性について検討する必要がある。

○利用のルールの検討

- ・静寂な羅臼湖の利用環境を維持するため、ガイドツアー、個人利用者が共通で守るべきルールの策定が必要である。

V. 知床連山登山道の利用のあり方に関する検討

1. ニツ池における植生の荒廃状況等に関する調査と対策の検討

(調査実施者：北海学園大学 教授 佐藤謙 専修大学北海道短期大学 教授 石川幸男 知床博物館 内田暁友 本編は資料編に記載)

(1) 調査概要

1) 調査の背景

知床連山登山道のニツ池においては、野営等の登山利用に伴い、踏圧が要因と考えられる脆弱な雪田植生等の荒廃が確認されている。

そのような状況から、一昨年度、環境省において、複数の付け替えルートの設定の検討が実施されたが、対策の絞込み、実施を行うためには植生の実態についてデータが不足している状況であった。昨年度はその基礎となるデータを収集することを目的として、現地調査を実施し、悪天候に見舞われながらも、迂回する付け替えルート（Eルート）上の9方形区（1m×1m）の組成調査を実施した。結果、Eルート上には低頻度ながらも希少種が確認され、また一部傾斜を横切ることから水分条件の影響が懸念されたため、ルートの付け替えは慎重な検討が必要と考えられた。

今年度は、昨年度に引き続き、ニツ池周辺の植生基礎調査を実施し、踏圧による荒廃状況やルート付け替え、野営場の移動を検討するための基礎情報の把握を行った。調査の概要を下記に整理する。

2) 調査日

2010年8月11日～14日

※悪天候のため、13日夕方、14日午前のみ実施

3) 調査内容

植生調査（方形区調査）

（種の優占度、群度判定、方位、傾斜、群落高等の群落属性、GPS位置情報）

天の池、地の池周辺 4方形区

地の池北西岸（野営場周辺）29方形区

天の池 4方形区

4) 調査結果

①ハイマツ群落

○方形区番号：Pp1～4 計4方形区（他に過去調査データ 5方形区有）

○概況：池周辺に分布。群落高2m以上、階層構造が発達。低木層と草本層、蘚苔地衣層の3つの階層に区分。

○希少種：低頻度ながら、希少種が生育

オクエゾサイシン（道R）ミヤマフタバラン（道R）、リシリビャクシン（国En、道En）

○考察

- ・今回、ハイマツ群落内に希少種の生育の確認がされたことから、ハイマツ群落に迂回するルート検討の場合は、詳細な調査、検討が必要である。

②ミネズオウーチングルマ群落

○GPS番号：52、53、62（2方形区）、63（2方形区）、64、67、68、74（10方形区）

○概況：地の池の北西岸のハイマツ群落に介在して存在、フードロッカーが設けられた空間を占めている。種組成は、亜高山帯から高山帯の各種植物群落を特徴づける種群が混生する。

○希少種：なし。知床山系では生育箇所が限られるミズゴケ属が生育。

○考察

- ・GPS52、53地点において、草本類の踏付け跡が顕著であり、野営跡と推測された。
- ・本群落は凸凹な地形で野営場として好まれていないが、部分的な破壊が確認された。
- ・フードロッカー、排泄の踏み分け道が存在しており、影響回避が必要である。

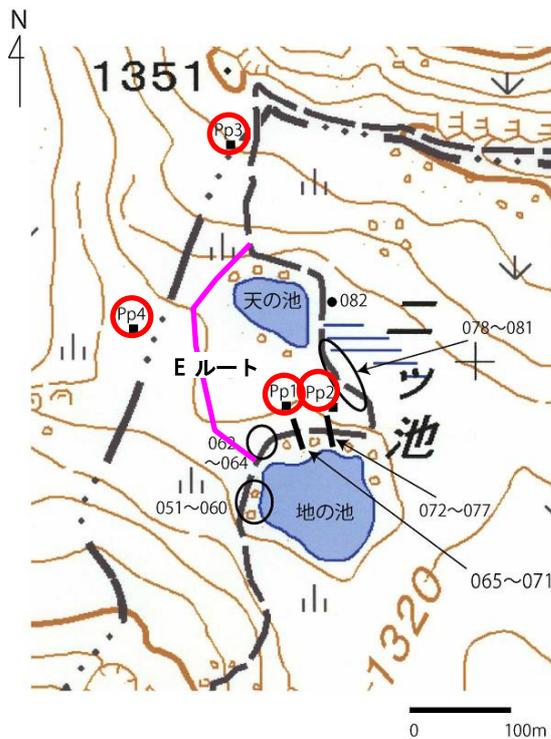


図 ハイマツ群落調査地点

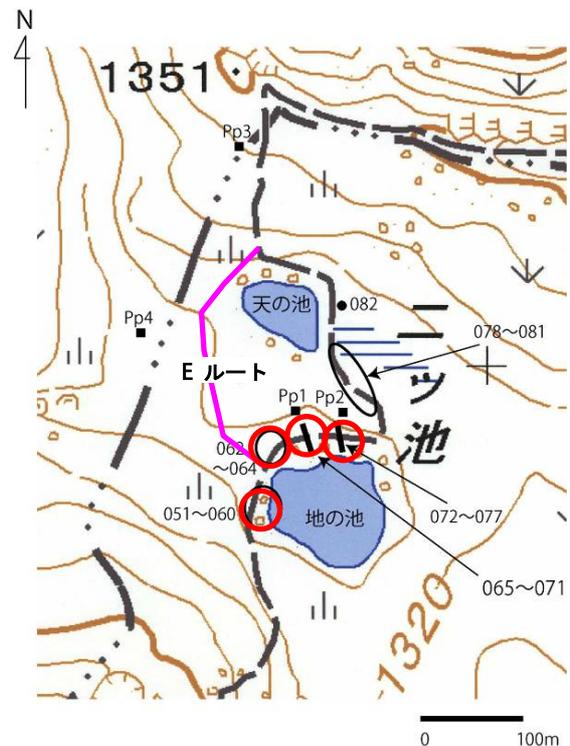


図 ミネズオウーチングルマ群落調査地点

③ミヤマヤナギーエゾゼンテイカ群落

○GPS 番号 : 58、60、70~72 (5 方形区)

○概況 : ハイマツ群落等の風背側 (南東側) に当たる、地の池の北西岸に分布し、ハイマツ群落のソデ群落として隣接する。亜高山高茎草原の種が多く、雪田群落の構成種も低頻度で存在する。

○希少種 : なし。

○考察

- ・現在使用されている野営地は本群落を排除して裸地化した形になっている。この裸地は泥土または砂土 (火山灰) に被われており、降雨による土壌流亡によって洗掘が予想される。本群落は、地の池の北西岸においてハイマツ群落を除くと、相対的に最も乾燥し、平坦な環境となっているので、本群落を減少させながら野営地が拡大する危険性がある。そのため、本群落の存続を考えた野営地の設定が必要と考えられる。

④ミネハリイータカネクロスゲ群落 (A)、エゾホソイ群落 (B)

○GPS 番号 : (A) 54、55、57、69、73 (5 方形区) (B) 56、59 (2 方形区)

○概況 : 地の池の北西岸、湖岸に近い低平な場所に分布する。この群落は高山の雪田群落の中で最も過湿な立地、湿原との移行的な立地等に成立する。

○希少種 : タカネクロスゲ (国 VI) 生育箇所が限られるラウスゲ、ミズゴケ類も生育

○考察

- ・人為的な影響が認められない箇所 (方形区 57、69、73) については、ラウスゲやミズゴケ類が優勢に出現する傾向が認められ、ルート検討の際は本群落への影響を避ける方策を講じる必要がある。
- ・従来の野営跡地が湿潤化し、本群落に変化した状況も確認された。

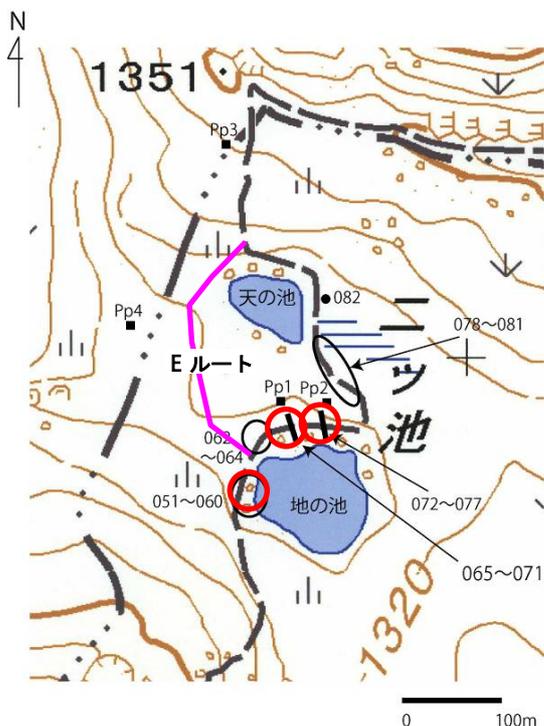


図 ミヤマヤナギーエゾゼンテイカ群落調査地点

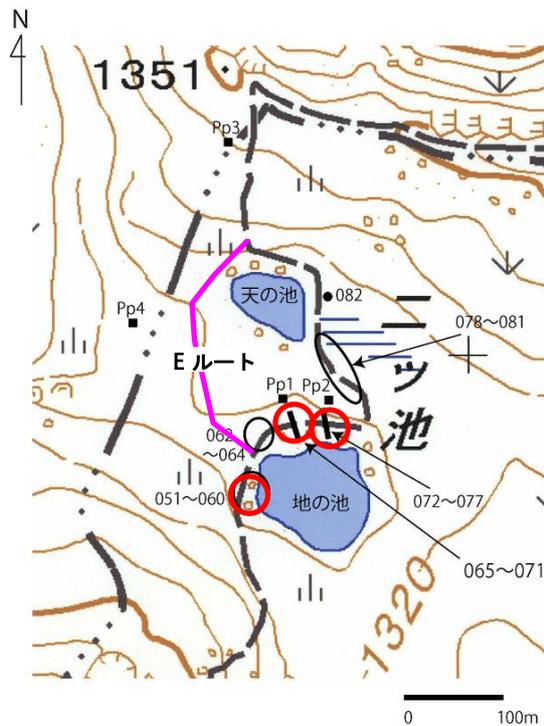


図 ミネハリイータカネクロスゲ群落 (A)、エゾホソイ群落 (B) 調査地点

⑤オオアゼスゲ群落 (A)、ラウススゲ群落 (B)

○GPS 番号 : (A) 65 (2 方形区) 66、70、77 (5 方形区) (B) 51、75 (2 方形区)

○概況 : 地の池の北西岸の水深の深い方にオオアゼスゲ群落が発生し、浅い方にラウススゲ群落が発生する。

○希少種 : なし。生育箇所が限られるラウススゲが生育。

○考察

- ・浅い湖岸は、ラウススゲの生育環境として重要である。

⑥ミヤマホソコウガイゼキショウ群落

○GPS 番号 : 78、79、80、欠測 (4 方形区)

○概況 : 天の池に接する高層湿原の西端の登山道が不明確になり、踏みつけ攪乱が著しい箇所に成立する。

○希少種 : ミヤマホソコウガイゼキショウ (道 R)、タカネクロスゲ (国 VI)

○考察

- ・本群落に関しては、高層湿原自体の植生調査を行い、評価を実施する必要がある。

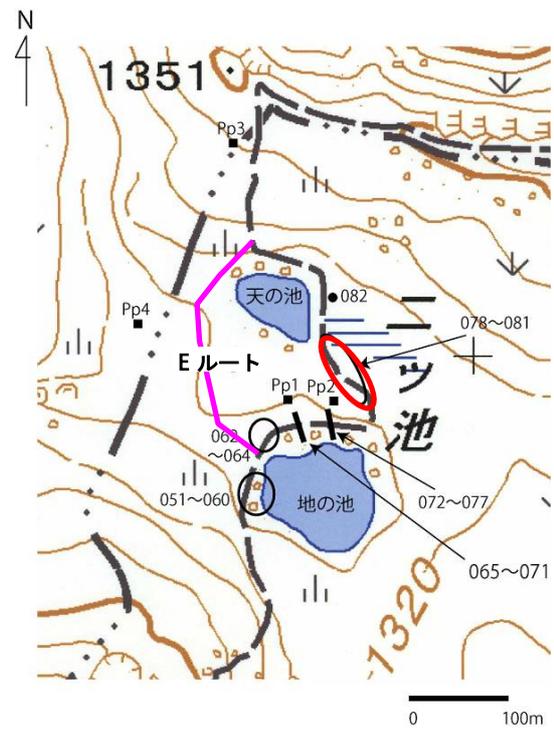
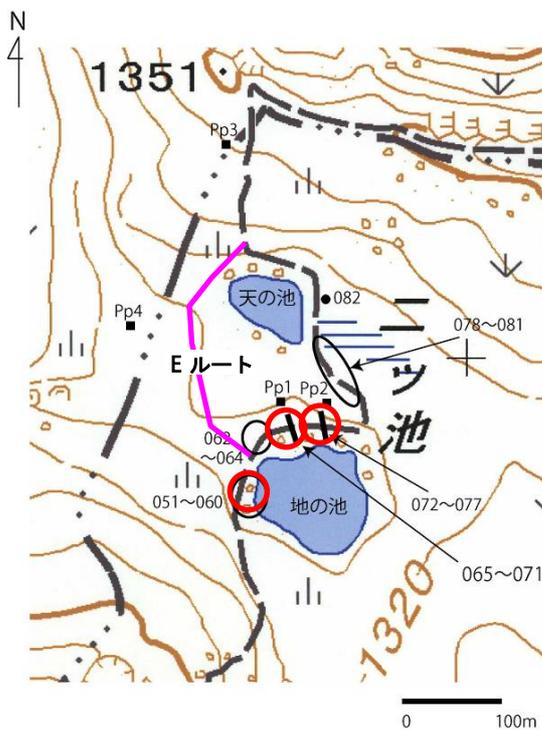


図 オオアゼスゲ群落 (A)、ラウススゲ群落 (B) 調査地点

図 ミヤマホソコウガイゼキショウ群落 調査地点

(2) 考察

今回の調査では二ツ池周辺、特に地の池の北西岸の野営地および登山道周辺に重点をおいて、登山による植生への影響を明らかにした。成立が確認された8群落のうち、ミネズオウーチングルマ群落、ミヤマヤナギーエゾゼンテイカ群落、ミネハリイータカネクロスゲ群落とエゾホソイ群落の計4群落において、野営地と登山道における踏圧の影響が著しいことが確認された。これら4群落は、湖岸で水深のある立地に成立するオオアゼスゲ群落やラウススゲ群落と、この地域で最も乾燥した立地に広がるハイマツ群落との間に介在して成立して、それぞれ小規模であるが、全体としてこの地域を特徴づける多様な群落である。また、国（環境省自然保護局野生生物課 2000a、2000b）と北海道（北海道環境生活部環境室自然保護課 2001）によって選定されている希少種として、ミネハリイ・タカネクロスゲ群落にはタカネクロスゲ（国 VII）が、ミヤマホソコウガイゼキショウ群落にはミヤマホソコウガイゼキショウ（道 R）とタカネクロスゲ（国 VII）が出現している。その他に、日本では知床山系にしか生育しないラウススゲが随所に生育し、知床山系では生育箇所が限られるミズゴケ属の各種も、ミネズオウーチングルマ群落とミネハリイータカネクロスゲ群落を中心に生育していた。

今回の調査によって、登山による歩行と野営による希少群落と希少種に対する踏みつけの悪影響が詳細に明らかにされた。このことから、今後は希少群落と希少種の保全対策の取り組みが急務といえる。

現状の知床連山縦走路は、硫黄山登山口が道道の落石防止対策で閉鎖されているため、岩尾別登山口からのピストン利用となっており、二ツ池での野営利用は従来に比べ減少している。今後硫黄山登山口が再開された場合、二ツ池での野営が従来のように増加することが考えられ、利用を行う際には、植生への影響を十分に配慮する必要がある。

なお、天の池東側に位置する湿原を筆頭に、実態調査が不十分な群落については、今後速やかな実態把握が必要である。また、野営利用を継続する場合には、その適正箇所と規模を把握し、年間利用者数や日あたりの利用状況を踏まえて、適正な容量が確保できるか等の利用の許容量に関する検証も必要と考えられる。

これらの調査結果も踏まえた上で、今回の調査で明らかになった希少種と植生に対する影響を防ぎ、ハイマツ群落の最小限の伐開などの方策によって、貴重な種が存在する草原や湿原の植生保護を実効的に進めることができるように、野営利用のあり方とルートの見直しが必要である。

2. 知床連山の縦走利用の整理

(1) 調査概要

1) 調査の背景

知床連山の縦走路は、羅臼岳、三ツ峰、サシルイ岳、オッカバケ岳、南岳、知床別岳を経て、硫黄山に到るルートである。山麓・山腹の森林から、稜線の高山植物群落まで多様な植生の垂直分布を見ることができ、また、多くの野生動物が生息するなど、原生的で優れた自然体験ができる地域である。

縦走路においては、一部登山道の荒廃や複線化、野営地等における植生の荒廃が見られ、し尿対策やヒグマ対策の充実が求められる状況にある。

またカムイワッカから硫黄山登山口までの区間は、落石の危険性があることから道路管理者の意向により通行止めとなっており、2006年（平成18年）から硫黄山登山口は利用ができず、縦走利用は実質できない状況となっている。なお、2010年（平成22年）の知床五湖とカムイワッカ間の道道の落石工事完了に伴い、カムイワッカ湯の滝から硫黄山登山口までの利用に関して、地元山岳会等から徒歩利用再開の要望が道路管理者に提出されており、今後利用の変化が生じる可能性がある。

連山の利用実態については、斜里側の岩尾別、羅臼側の湯ノ沢に設置されるカウンターで人数が把握されており、平成22年においては年間約6,500人となっている。この中のほとんどは、羅臼岳の日帰り利用が占めており、この内の一部が縦走利用となっている。

昨年度、過去5ヶ年の縦走利用の実態について、北海道森林管理局が管理する入林簿を基に整理を行い、本業務では、今年度分のデータを追加し、利用の実態について検証を行うものとする。

2) 調査方法

データは林野庁網走南部森林管理署が管理する岩尾別登山口の入山簿と林野庁根釧東部森林管理署が管理する羅臼温泉登山口の入山簿から作成した。

3) 調査結果

調査結果は下記の項目により整理を行った。

- ①岩尾別登山口および羅臼温泉登山口における入山利用者数および縦走路利用者数
- ②岩尾別登山口および羅臼温泉登山口における月別縦走利用者数
- ③縦走利用者の各登山口の入下山者数
- ④縦走利用者の滞在日数
- ⑤縦走利用者の各キャンプ地の宿泊利用人数

①岩尾別登山口および羅臼温泉登山口における入山利用者数および縦走路利用者数

表 1 岩尾別登山口および羅臼温泉登山口における入山利用者数および縦走路利用者数

	入山 ※			縦走利用 ※※			入山者に占める 縦走利用者の割合
	組数	人数	(前年比)	組数	人数	(前年比)	
2005年 †	3,412	8,418		339	777		9%
2006年	3,092	7,718	92%	143	395	51%	5%
2007年	2,621	6,341	82%	133	289	73%	5%
2008年	2,490	6,467	102%	106	251	87%	4%
2009年	2,439	5,259	81%	117	238	95%	5%
2010年	—	5,122	97%	106	207	87%	4%

※ 2005～09年は両登山口の入山簿をもとに林野庁がまとめたデータを引用
2010年は林野庁がまとめた岩尾別登山口の利用者数と羅臼温泉登山口
の入山簿からのカウントの合算による

※※ 入山簿記録を閲覧し、該当データを抜粋

† 2005年は硫黄山登山口も利用可能であったが、データに含めず

②岩尾別登山口および羅臼温泉登山口における月別縦走利用者数

表 2 岩尾別登山口および羅臼温泉登山口における月別縦走利用者数

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2005年												
縦走利用者数	9	0	0	3	20	335	317	89	4	0	0	777
入山者数	9	0	0	48	416	3,517	2,621	1,546	246	15	0	8,418
2006年												
縦走利用者数	0	0	0	5	14	218	101	52	2	3	0	395
入山者数	0	0	6	40	388	3,535	2,253	1,276	202	18	0	7,718
2007年												
縦走利用者数	0	0	0	0	8	186	70	19	5	1	0	289
入山者数	0	0	11	41	327	2,828	2,020	888	214	12	0	6,341
2008年												
縦走利用者数	0	0	0	0	20	126	61	39	5	0	0	251
入山者数	0	0	12	64	540	2,543	1,807	1,262	230	4	5	6,467
2009年												
縦走利用者数	0	0	0	0	17	103	89	28	1	0	0	238
入山者数	0	0	15	25	433	1,991	1,678	947	164	6	0	5,259
2010年												
縦走利用者数	0	0	0	2	14	65	83	32	11	0	0	207
入山者数	0	0	6	67	356	1,878	1,779	789	240	7	0	5,122

月別の利用状況は、各月の入山者数を表す

③縦走利用者の各登山口の入下山者数

表 3 縦走利用者の各登山口の入下山者数

		2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
入山	岩尾別	686	374	276	234	216	195
	羅臼温泉	35	21	13	17	22	12
	硫黄山	45	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0
	不明	11	0	0	0	0	0
下山	岩尾別	175	298	216	188	169	191
	羅臼温泉	9	14	17	6	20	5
	硫黄山 ※	469	43	21	6	0	0
	その他	4	0	5	7	0	0
	不明	120	40	30	44	49	6

※ カムイワッカとの記載は硫黄山登山口に含める
入山簿記録から、入山口および下山予定地を抜粋

図1 縦走路利用者数の推移

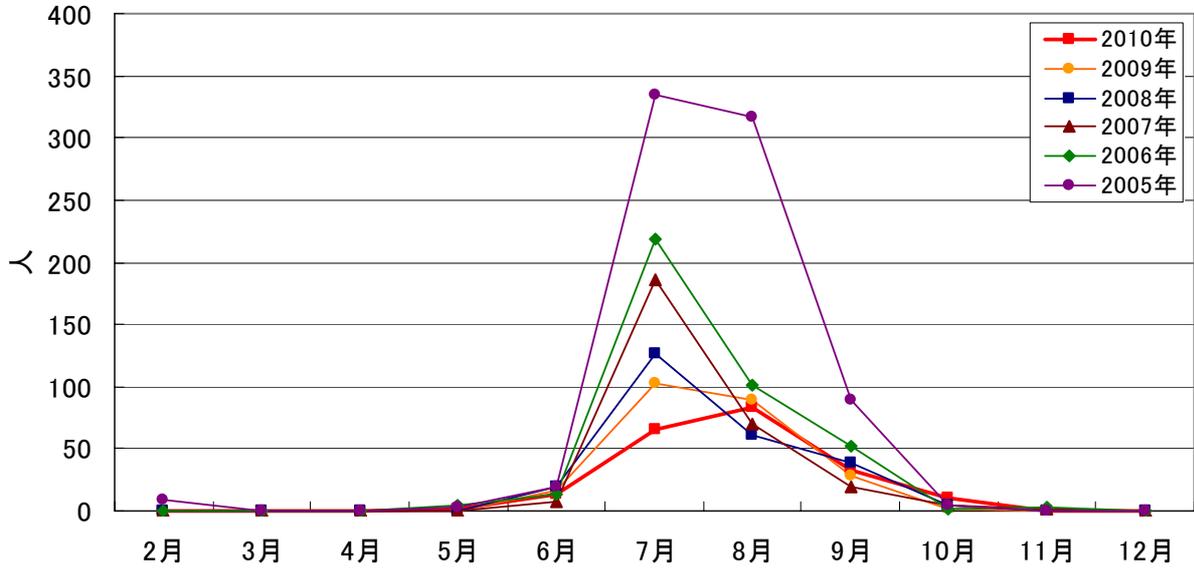
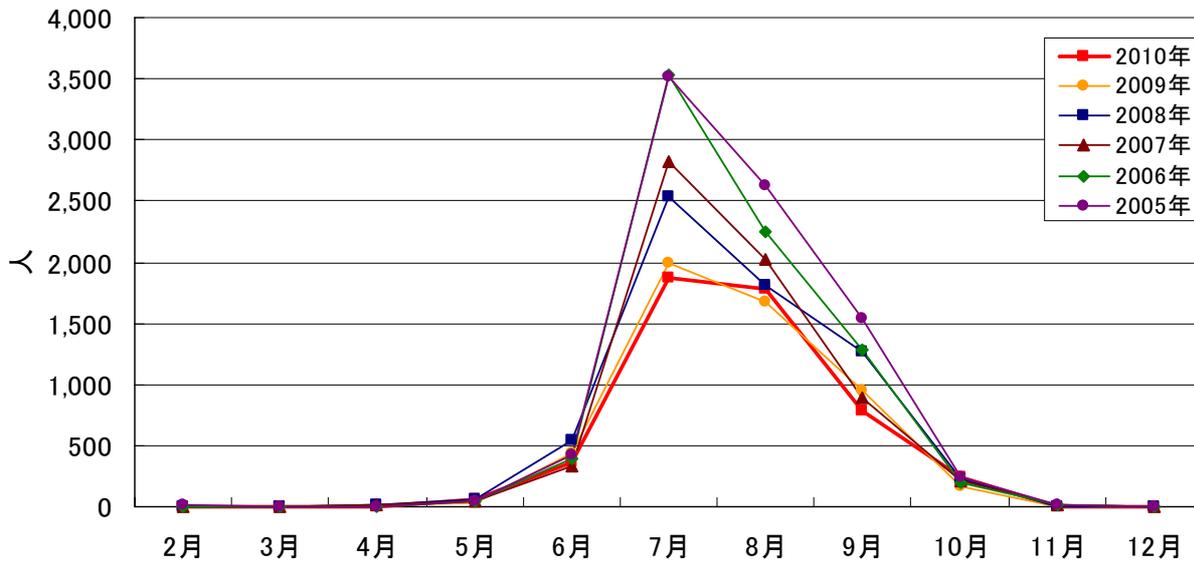


図2 入山者数の推移

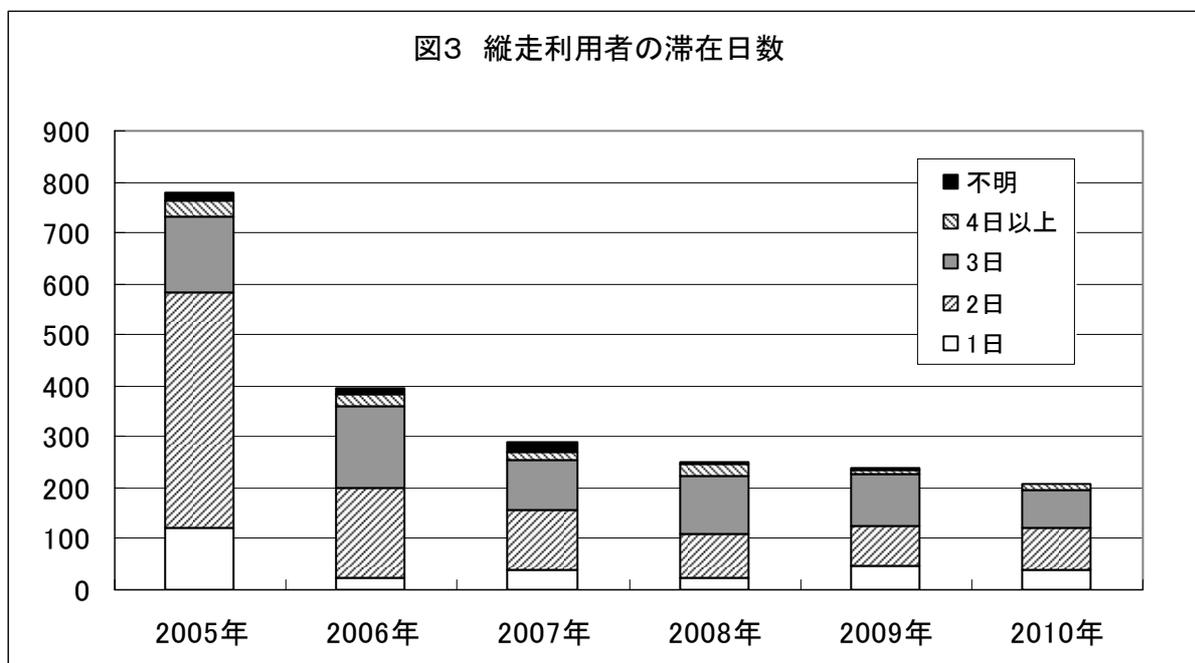


④縦走利用者の滞在日数

表 4 縦走利用者の滞在日数

	日帰り※	2日	3日	4日以上	不明
2005年	120	463	149	33	12
2006年	22	177	161	24	11
2007年	41	114	101	14	19
2008年	25	85	114	24	3
2009年	46	81	99	8	4
2010年	38	84	75	10	0

入山簿に記載された入下山日記録および滞在予定日数記録から算出
 ※日帰りとは入山と下山が同一日で、縦走路のポイントを目的地としたもの

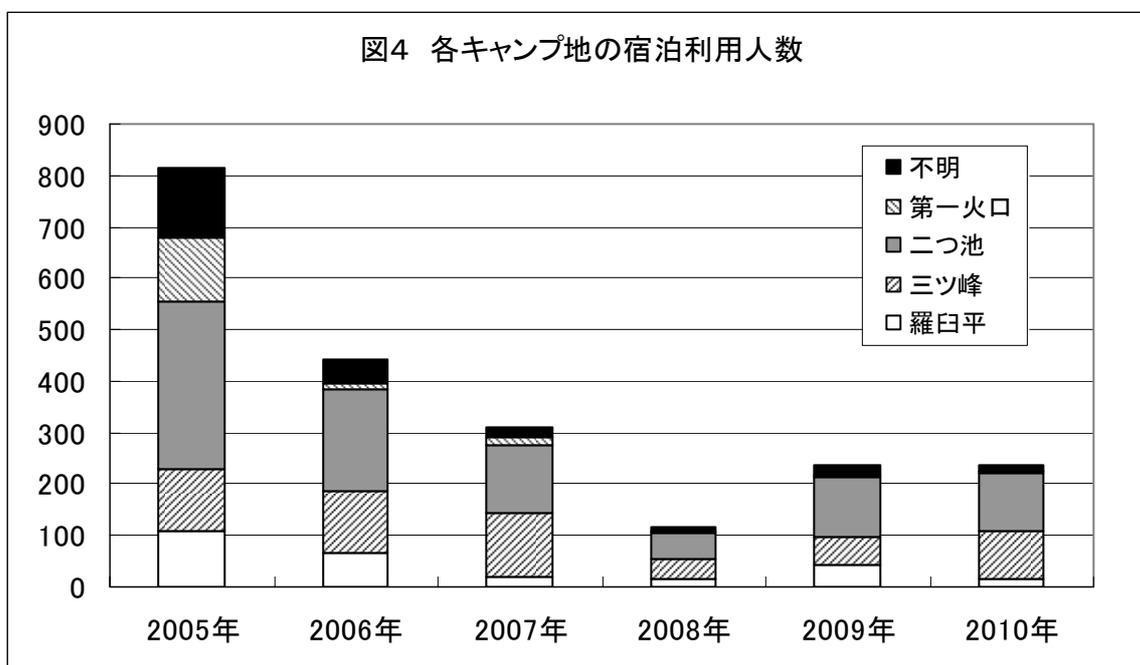


⑤縦走利用者の各キャンプ地の宿泊利用人数

表 5 縦走利用者の各キャンプ地の宿泊利用人数

	羅臼平	三ツ峰	二つ池	第一火口	不明	合計
2005年	107	123	326	122	137	815
2006年	67	119	198	11	47	442
2007年	21	121	132	17	20	311
2008年	17	37	50	4	9	117
2009年	44	54	114	6	18	236
2010年	17	92	112	3	14	238

入山簿記録から、宿泊予定地を抜粋



(2) 考察

1) 縦走利用者数の推移について

年間の縦走利用者数については、硫黄山登山口が閉鎖された2006年以降、200～300人の範囲で推移している状況であり、硫黄山登山口が利用できた当時に比較し、半数以下となっている。

2010年は入山数の減少に比べ、縦走利用の減少割合が高くなった。昨年に比較し、7月の減少が目立つ傾向にあり、天候の影響等が考えられる。なお、今年度は8月26日から9月2日にかけて、ヒグマの出没による羅臼岳登山の自粛要請が実施されたが、縦走利用に関しては特段大きな関連は見られなかった。

表6 2005年の縦走利用者数、入山者数、斜里町入込数をそれぞれ100%とした場合の経年変化(%)

	縦走利用者数	入山者数	斜里町観光客入込数 (通年)	斜里町観光客入込数 (7～9月)
2005	100.0	100.0	100.0	100.0
2006	50.8	91.7	95.6	94.3
2007	37.2	75.3	82.9	84.4
2008	32.3	76.8	76.1	74.9
2009	30.6	62.5	68.9	69.5
2010	26.6	60.8	70.4	72.1

表7 7月の気象状況比較

	降水量	平均気温	最高気温	最低気温	平均風速	日照時間
	(mm)	(°C)	(°C)	(°C)	(m/s)	(時間)
平年値	83.6	17.1	20.7	13.6	0.9	163
2009年	185	15.2	25.5	8.2	0.7	98.8
2010年	207	18.7	30.2	10.1	0.8	94.9

出典 気象庁ホームページ

2) カウンターデータとの関係

登山口には別途カウンターが設置されている。入山簿の記録と比較すると、入山簿はカウンター値の約80%前後となっており、過去6年間、ほぼ同率である。

表8 岩尾別登山口と羅臼湯の沢登山口における利用者数のカウンター(修正値)と入山簿の比較

	A: カウンター岩尾別	B: カウンター湯の沢	C = A + B	D: 入山簿岩尾別+湯の沢	D/C*100
2005	9,878	599	10,477	8,418	80.3
2006	9,081	589	9,670	7,718	79.8
2007	7,160	688	7,848	6,341	80.8
2008	7,187	533	7,720	6,467	83.8
2009	6,208	591	6,799	5,259	77.3
2010	6,041	487	6,528	5,122	78.5

3) 滞在日数の変化について

硫黄山登山口が使用できなくなった 2006 年度以降、同様な傾向であり、二泊三日から三泊四日の行程を組む登山者が多い。

表9 縦走利用者の滞在日数（人）

	日帰り※		2日		3日		4日以上		不明		計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
2005年	120	15%	463	60%	149	19%	33	4%	12	2%	777
2006年	22	6%	177	45%	161	41%	24	6%	11	3%	395
2007年	41	14%	114	39%	101	35%	14	5%	19	7%	289
2008年	25	10%	85	34%	114	45%	24	10%	3	1%	251
2009年	46	19%	81	34%	99	42%	8	3%	4	2%	238
2010年	38	18%	84	41%	75	36%	10	5%	0	0%	207

入山簿に記載された入下山日記録および滞在予定日数記録から算出

※日帰りとは、入山と下山が同一日で、縦走路上のポイントを目的地として記載した利用者

4) 野営の利用状況

硫黄山登山口が使用できなくなった 2006 年以降、同様な傾向であり、三ツ峰、二つ池の利用状況が多い。

表10 縦走利用者の各キャンプ地の宿泊利用人数（人）

	羅臼平		三ツ峰		二つ池		第一火口		不明		合計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
2005年	107	13%	123	15%	326	40%	122	15%	137	17%	815
2006年	67	15%	119	27%	198	45%	11	2%	47	11%	442
2007年	21	7%	121	39%	132	42%	17	5%	20	6%	311
2008年	17	15%	37	32%	50	43%	4	3%	9	8%	117
2009年	44	19%	54	23%	114	48%	6	3%	18	8%	236
2010年	17	7%	92	39%	112	47%	3	1%	14	6%	238

5) まとめ

知床連山の縦走利用者数については、硫黄山登山口閉鎖以前は年間 800 人程度の利用があったが、閉鎖以降は、200～300 人と半数以下の利用になっている。これは縦走利用が不可能となり、ピストンでの利用をせざるを得ない状況であることが主な要因と考えられる。

それに伴い、野営地の利用者数も大きく減少し、二つ池では閉鎖以前に比較し、3割程度となっている。別途二つ池の植生調査によれば、野営場跡の植生の回復が確認されているが、野営利用者が減少した影響と推測される。

現在、硫黄山登山口は閉鎖された状態であり、このままの状況が続けば、同じような利用規模に留まると考えられる。ただし、今後硫黄山登山口が再開され、縦走利用が可能となった場合は、従来の利用者数に戻り、野営地利用も多くなることが予測されることから、登山ルートと野営地の植生保全に関しては連動した検討が必要と考えられる。